

高知県立大学  
University of Kochi

# 社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 1 5 号

2 0 1 3 年

(2012年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>





# 目 次

## I. 2012年度を振り返る

1. 2012年度 社会福祉学部 概 括	1
2. 2012年度 社会福祉学部 主要行事	3
3. 2012年度 社会福祉学部 時間割	4

## II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

社会福祉学部 教員一覧（2012年度）	7
1. 小坂田 稔	9
2. 杉原 俊二	12
3. 住友 雄資	15
4. 田中 きよむ	17
5. 長澤 紀美子	21
6. 林 美朗	24
7. 前 山 智	26
8. 丸岡 利則	28
9. 宮上 多加子	30
10. 黒田 しづえ	32
11. 後藤 由美子	34
12. 鈴木 孝典	36
13. 西 内 章	40
14. 上白木 悦子	42
15. 西 梅 幸治	45
16. 鳩間 亜紀子	47
17. 福間 隆康	49
18. 三好 弥生	51
19. 石川 由美	53
20. 稲垣 佳代	55
21. 加藤 由衣	57
22. 鈴木 裕介	59
23. 田中 眞希	61
24. 二本 柳 覚	63
25. 橋 本 力	65

### Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部 委員会体制一覧（2012年度）	67
1. 教 務 委 員 会	68
2. 入 試 委 員 会	69
3. 学 生 委 員 会	71
4. 実 習 委 員 会	72
5. 就 職 委 員 会	74
6. 広 報 委 員 会	76
7. 健 康 長 寿 セ ン タ ー	85
8. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	92
9. 総 務 ・ 予 算 委 員 会	94

### Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	97
2. 国 際 交 流	98
3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加	99
4. グローカルクラブ	100
5. 太 鼓 部	101
6. 池 手 話 サ ー ク ル	102
7. い け と べ ！	103
8. イ ケ あ い	104
9. ハ モ ☆ イ ケ	105
10. か ん き も ん	106

### Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2012年度）

編 集 後 記

# I

2012年度を振り返る



# 2012年度 社会福祉学部活動概括

学部長 前山 智

## 1. 教員体制

- ・2012年度は教員増分1名と退職者後任1名が加わり教員数25名(ただし、2012年度末に教授2名と講師1名が退職)。  
職位構成は教授9名、准教授4名、講師5名、助教7名。  
担当分野構成は福祉基礎5名、社会福祉10名、介護福祉6名、精神保健福祉4名。

## 2. 教育

- ・国家資格取得のための3つのコース(介護・社会福祉、精神・社会福祉、社会福祉)を選択するためのオリエンテーションを実施。
- ・3回生が2回生の時から始めた介護実習(450時間)を介護・社会福祉コースの学生として初めて終わらせ、11月に介護実習報告を開催。
- ・8月から10月にかけて3回生(介護・社会福祉コースを除く)が社会福祉現場実習を、4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・4回生の卒業研究では、5月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月20日締切りで論文提出、発表会を2月に開催。
- ・平成22・23年度卒業生を対象とした学部教育評価アンケート調査を試行実施。

## 3. 研究

- ・研究成果としては著書0編、論文29編、学会発表31件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第62巻に9件投稿。
- ・科学研究費へ15件応募し応募率65%、2件採択で採択率13.3%。
- ・科研費や厚労省科研費を介した他大学教員との共同研究5件。
- ・若手研究者を育成するために研究費を職位に対して逆傾斜配分。
- ・教員2名が博士号を取得。

## 4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第14号を作成・公表。
- ・研究面でのFD活動として学会・研究活動等報告会を3回開催。
- ・教育面でのFD活動として、学外の「2012年度全国社会福祉教育セミナー」、「2012年度社会福祉士養成校協会中四国ブロック教員研修会」、「2012年度精神保健福祉士養成校協会全国研修会」に参加。
- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修プログラムを受講。

## 5. 入学生と2013年度入学試験

- ・4月に第15期生72名(県内出身33名、男子8名)が入学。
- ・2013年度推薦入試では、県内枠への志願者が33名(+3)で志願倍率1.7倍、全国枠は36名(+2)で3.6倍。両者とも男子受験生が増加。
- ・2013年度一般入試では前期の志願数が増え、後期は減少し、前期が188名(+11)で志願倍率5.4倍、合格倍率4.0倍、後期が159名(-44)で志願倍率31.8倍、合格倍率8.7倍。

## 6. 卒業生と就職状況

- ・卒業生を講師とした学部就職セミナーを2回開催。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・3月に第12期生30名が卒業。
- ・卒業生30名全員の就職が決定し、全員が福祉分野に、67%が県内に就職。
- ・就職先の内訳は、医療施設37%、福祉施設37%、公務員(準・臨時を含む)26%。
- ・県内に20名就職(県外出身6名)、その内の5名が県市町村の社会福祉協議会に就職。

## 7. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験

- ・4回生に国家試験に関するオリエンテーションを3回実施。
- ・4回生が1月初旬に恒例となっている国試合宿勉強会を実施。
- ・1月末に実施された第25回社会福祉士国家試験に30名受験して20名合格(合格率66.7% / 平均18.8%、218校中14位)、第15回精神保健福祉士国家試験に26名受験して22名合格(合格率84.6% / 平均56.9%、117校中15位)で、両者とも平均合格率が低かった影響か、合格率は下がった。
- ・既卒を含めた総合の合格率は、社会福祉士が66.7%で218校中5位、精神保健福祉士が82.1%で117校中7位。

## 8. 地域貢献活動

- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から12月に掛けて開催、延べ約180名の福祉関係者等が参加。
- ・オープンキャンパス前日の8月4日に「高校生のための公開講座」を開催し、県外からの9名を含め58名(23校)の高校生が参加。
- ・「高知医療センターと高知県立大学との包括的連携に関する協定書」に基づき、高知医療センターの地域医療連携室と連携事業(社会福祉学部教員によるコンサルテーション)を実施。

## 9. 広報活動

- ・オープンキャンパスや進学相談会で配布する社会福祉学部の2012版パンフレット作成。
- ・3福祉士の資格に対応した社会福祉学部を高校に広報するため、県外出身の1回生17名が夏休み期間中に出身高校を訪問。
- ・学部ホームページにより学部行事や学生の活動等を発信。

## 10. 国際交流活動

- ・エルムズ大学の短期研修に2・3回生2名が参加。
- ・学生7名が参加してタイにおいて1週間の国際ソーシャルワーク研修を実施。
- ・マレーシア国立サバ大学心理ソーシャルワーク学部との交流の可能性を調査。

## 11. 学会等

- ・高知県社会福祉協議会に協力(学生ボランティア約100名)し、池キャンパスで12月に日本子ども虐待防止学会開催。

## 2012年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(水)	入学式(県民文化ホール、15期生72名)
	5-6日(木-金)	学生ガイダンス
	10日(月)	前期授業開始(～8月10日)
	21日(土)	創立記念日/新入生バスハイク(県立香北青少年の家)
	23日(月)	第1回教授会
5月	17日(木)	介護実習Ⅱ-①報告会
	18日(金)	卒業研究構想発表会Ⅰ/第1回就職セミナー
	25日(金)	卒業研究構想発表会Ⅱ
	28日(月)	第2回教授会
6月	9日(土)	学年間交流会
	11日(月)	第1回学会・研究活動等報告会
	25日(月)	第3回教授会
7月	9日(月)	第2回学会・研究活動等報告会
	23日(月)	第4回教授会
8月	4日(土)	高校生のための公開講座
	5日(日)	オープンキャンパス
	27日(月)	第5回教授会
9月	24日(月)	第6回教授会
10月	1日(月)	後期授業開始(～2月10日)
	13日(土)	リカレント教育講座開講(4講座:10月13日、11月10日、12月1・15日)
	22日(月)	第7回教授会
	31日(水)	卒業研究中間発表会
11月	10日(土)	介護実習報告会
	17日(土)	推薦入学試験(県内33+全国36名受験)
	26日(月)	第8回教授会
12月	3日(月)	第2回就職セミナー
	10日(月)	第3回学会・研究活動等報告会
	20日(木)	卒業研究論文提出締切 / 国家試験受験激励会
	25日(火)	第9回教授会
1月	8-10日(火-木)	国家試験合宿勉強会(香北青少年の家)
	26-27日(土-日)	第25回社会福祉士国家試験・第15回精神保健福祉士国家試験(30・26名受験)
	28日(月)	第10回教授会
2月	7日(木)	相談援助実習報告会
	15日(金)	卒業研究発表会 / 4回生を送る会
	18日(月)	第11回教授会
	25-26日(月-火)	前期日程入学試験(171名受験)
3月	6日(水)	実習連絡協議会
	12日(火)	後期日程入学試験(78名受験)
	19日(火)	卒業式(県民文化ホール、12期生30名卒業)
	25日(月)	第12回教授会

平成24年度 社会福祉学部 時間割

日	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限	
	8:40~10:10	10:20~11:50	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40	教室	教員	教室	教員	教室
1	中国語初級Ⅰ 社会保険	英語コミュニケーションⅠ	栄養と健康の歴史 地域学 介護コミュニケーション技術 福祉研究法	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
2	英語コミュニケーションⅡ (社会)介護技術	英語コミュニケーションⅠ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
3	介護の歴史 精神医学	中国語中級Ⅰ (社会)介護総合演習Ⅱ 精神科リハビリテーション学	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
4	基礎化学	環境衛生 (社会)社会理論と社会システム 子育て支援論	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
1	健康スポーツ科学Ⅰ 健康スポーツ科学Ⅱ	芸術論Ⅰ(音楽入門) 社会福祉入門演習	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
2	社会相談援助論の理論と方法	社会相談援助論の理論と方法	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
3	介護相談援助論の理論と方法	医療福祉論 (社会)相談援助論の理論と方法	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
4	現代社会論 介護コミュニケーション技術	英語コミュニケーションⅠ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
1	介護コミュニケーションⅢ	英語コミュニケーションⅠ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
2	介護介護過程Ⅰ	介護コミュニケーションⅠ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
3	精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
4	精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
1	社会心理学理論と心理的支援 (社会)発達と老化の理解Ⅰ	現代社会と福祉 (社会)発達と老化の理解Ⅱ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
2	介護心理学理論と心理的支援	現代社会と福祉 (社会)発達と老化の理解Ⅱ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
3	介護心理学理論と心理的支援	現代社会と福祉 (社会)発達と老化の理解Ⅱ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
4	介護心理学理論と心理的支援	現代社会と福祉 (社会)発達と老化の理解Ⅱ	介護の歴史 介護の歴史の理解Ⅱ 精神科リハビリテーション学 チームアプローチ	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	心身の科学 土佐の経緯とまちづくり 栄養学と人間 (社会)相談援助実習指導	基礎統計学	谷本	基礎統計学	谷本	大講義室
科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等	科目名等
開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日
教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員	教員
備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考

【備考】\*1 受講登録は、前期中集中すること



平成24年度 社会福祉学部 時間割

	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限					
	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員				
月	1	英語コミュニケーションII 中国語初級II 介護介護総合演習I 介護介護総合演習II	標示 高西 後藤・石川・田中眞 標示 高西 田中き	10:20~11:50 英語コミュニケーションI 中国語中級II 福祉行政概論と福祉計画	標示 高西 田中き	12:50~14:20 土佐の自然と暮らし <社会面接技法> 介護介護総合演習II 福祉サービスの組織と経営	大講義室 観望室 F110 E103	小坂田ほか 鈴木孝・梅理 鈴木孝・梅理	14:30~16:00 社会福祉概論 社会福祉概論 社会福祉概論	E103 F110	16:10~17:40	教室	教室	
	2	英語コミュニケーションII 精神医学	標示 林	英語コミュニケーションI 中国語中級II 福祉行政概論と福祉計画	標示 高西 田中き	<社会面接技法> 介護介護総合演習II 福祉サービスの組織と経営	観望室 F110 E103	鈴木孝・梅理 鈴木孝・梅理	社会福祉概論 社会福祉概論 社会福祉概論	E103 F110				
	3	精神医学	林	英語コミュニケーションI 中国語中級II 福祉行政概論と福祉計画	標示 高西 田中き	<社会面接技法> 介護介護総合演習II 福祉サービスの組織と経営	観望室 F110 E103	鈴木孝・梅理 鈴木孝・梅理	社会福祉概論 社会福祉概論 社会福祉概論	E103 F110				
	4	社会福祉論(※) 社会福祉概論	梅間 田中き	現代社会と福祉 社会福祉概論	長澤	自然災害と防災の科学 科学と人間	A318 E102	大村 一色	社会福祉論 社会福祉論 社会福祉論	A318 A319				
火	1	社会福祉論(※) 介護介護総合演習IV	宮上・石川	現代社会と福祉 社会福祉概論	長澤	自然災害と防災の科学 科学と人間	A318 A319	大村 一色	社会福祉論 社会福祉論 社会福祉論	A318 A319				
	2	介護介護総合演習IV 介護介護総合演習V	宮上・石川	現代社会と福祉 社会福祉概論	長澤	自然災害と防災の科学 科学と人間	A318 A319	大村 一色	社会福祉論 社会福祉論 社会福祉論	A318 A319				
	3	介護介護総合演習IV 介護介護総合演習V	宮上・石川	現代社会と福祉 社会福祉概論	長澤	自然災害と防災の科学 科学と人間	A318 A319	大村 一色	社会福祉論 社会福祉論 社会福祉論	A318 A319				
	4	社会福祉論(※) 介護介護総合演習IV	宮上・石川	現代社会と福祉 社会福祉概論	長澤	自然災害と防災の科学 科学と人間	A318 A319	大村 一色	社会福祉論 社会福祉論 社会福祉論	A318 A319				
水	1	社会福祉論(※) 介護介護総合演習IV	丸岡 黒田・石川・田中眞	健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	清原/川上ほか 丸岡 後藤・田中眞	A318 E102 F110	萩沼	基礎生物学 健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	大講義室 E103					
	2	社会福祉論(※) 介護介護総合演習IV	丸岡 黒田・石川・田中眞	健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	清原/川上ほか 丸岡 後藤・田中眞	A318 E102 F110	萩沼	基礎生物学 健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	大講義室 E103					
	3	社会福祉論(※) 介護介護総合演習IV	丸岡 黒田・石川・田中眞	健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	清原/川上ほか 丸岡 後藤・田中眞	A318 E102 F110	萩沼	基礎生物学 健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	大講義室 E103					
	4	社会福祉論(※) 介護介護総合演習IV	丸岡 黒田・石川・田中眞	健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	清原/川上ほか 丸岡 後藤・田中眞	A318 E102 F110	萩沼	基礎生物学 健康とヘルスプロモーション (社会)相親援助の基礎と専門職 (介護)介護の基本I	大講義室 E103					
木	1	英語コミュニケーションIII 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林				
	2	英語コミュニケーションIII 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林				
	3	英語コミュニケーションIII 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林				
	4	英語コミュニケーションIII 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林	英語コミュニケーションI 介護介護総合演習I	標示 梅間・根本 三好・林	標示 梅間・根本 三好・林				
金	1	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III				
	2	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III				
	3	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III				
	4	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III	後藤・田中眞 三好 二本柳 二本柳	介護介護総合演習II 介護介護総合演習III				
後期 集中講義											科目名等		開講月日	
介護介護総合演習II① 地域福祉活動II											標示 梅間 三好 二本柳 二本柳		標示 梅間 三好 二本柳 二本柳	



# II

社会福祉学部教員の教育研究活動  
(教育研究活動報告書) 他



## 2012年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	小 坂 田 稔	博 士（学 術）	地 域 福 祉 論
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児 童 ・ 家 族 福 祉 論
教 授	住 友 雄 資	博 士（臨床福祉学）	精 神 保 健 福 祉 援 助 技 術
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	福 祉 行 財 政 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福 祉 政 策 論 / 国 際 比 較 研 究
教 授	林 美 朗	博 士（医 学） 博 士（文 学）	精 神 医 学
教 授	前 山 智	博 士（工 学）	情 報 教 育 / X 線 分 光
教 授	丸 岡 利 則	修 士（社会福祉学）	理 論 福 祉 学
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	黒 田 しづえ	修 士（人 間 科 学）	介 護 福 祉 論
准教授	後 藤 由 美 子	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	鈴 木 孝 典	博 士（人 間 学）	精 神 保 健 福 祉 論
准教授	西 内 章	修 士（社会福祉学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
講 師	上 白 木 悦 子	博 士（医 学）	医 療 福 祉 論
講 師	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
講 師	鳩 間 亜 紀 子	修 士（社会福祉学）	高 齢 者 福 祉 論
講 師	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	福 祉 サ ー ビ ス の 組 織 と 経 営

教育研究活動報告書（教員一覧）

講 師	三 好 弥 生	修 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論
助 教	石 川 由 美	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	鈴 木 裕 介	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	田 中 眞 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	二 本 柳 覚	修 士（福祉マネジメント）	精神科リハビリテーション学
助 教	橋 本 力	博 士（学 術）	高 齢 者 福 祉 論

# 小坂田 稔

Minoru OSAKADA

## ○ 研究活動

### （1）論文等（1）

堀川涼子・小坂田稔(2012)「高齢化が進む中山間地域におけるまちづくり第2報『物見力プロジェクト』設立のプロセスと展開」『美作大学紀要』第46巻, pp.19-27

## ○ 教育活動

### （1）学部

「地域福祉の理論と方法」「コミュニティソーシャルワーク」「社会福祉ふれあい実習」「相談援助演習」「相談援助実習指導」「相談援助実習」「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」「福祉研究演習Ⅲ」「地域福祉活動Ⅰ」「地域福祉活動Ⅱ」

## ○ 委員会活動

【全学】FD 委員会委員 健康長寿センター委員会委員

【学部】実習委員長 社会福祉士養成校協会担当

## ○ 社会的活動

### （1）委員等

- ・ 高知県社会福祉審議会副会長
- ・ 高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会委員長
- ・ 高知市地域福祉計画推進協議会会長
- ・ 高知市成年後見サポートセンター運営委員
- ・ 岡山県介護予防市町村支援委員会委員長
- ・ 岡山県津山市地域包括ケア会議会長
- ・ 岡山県美咲町地域包括ケア会議会長
- ・ 岡山県総社市地域包括ケア会議委員
- ・ 岡山県福祉移送特区津山・真庭・勝英地区運営協議会会長
- ・ 岡山県久米郡地域福祉商業等研究事業委員会アドバイザー
- ・ 社会福祉法人吉備健生会監事

### （2）各種研修講師等

- ・ 「土佐清水市社会福祉協議会・地域福祉研修会」（平成24年6月）
- ・ 「平成24年度第10回四国地域福祉実践セミナーin高知・土佐清水市」分科会「暮らし～住み慣れた地域で～」アドバイザー（平成24年7月）
- ・ 「高知県民生委員児童委員協議会連合会・中央東ブロック研修会」（平成24年8月）
- ・ 岡山市民生委員児童委員協議会「地域福祉部研修」（平成24年8月）
- ・ 鳥取県社会福祉協議会「平成24年度主任介護支援専門員研修」（平成24年8月）
- ・ 岡山県吉備地区民生委員・児童委員協議会「民生委員・児童委員研修」（平成24年6月）
- ・ 徳島県美馬市社会福祉協議会「小地域生活支援ネットワークリーダー研修会」（平成24年8月）

## 教育研究活動報告書（小坂田 稔）

- ・ 奈良県社会福祉協議会「平成 24 年度市町村社協理事・評議員セミナー」  
（平成 24 年 8 月）
- ・ 総社市社会福祉協議会「東部ブロック福祉委員合同研修会」（平成 24 年 6 月）
- ・ 岡山県社会福祉協議会「社協コミュニティワーカー実践者スキルアップ研修」（平成 24 年 10 月）
- ・ 高知県社会福祉協議会事例研修会（平成 24 年 11 月）
- ・ 高知県社会福祉協議会・市町村社協職員ブロック別研修会（4カ所）（平成 24 年 11 月～2 月）
- ・ 岡山県民生委員児童委員協議会「平成 24 年度民生委員児童委員協議会会長研修会」  
（平成 24 年 12 月）
- ・ 岡山県保健福祉部長寿社会課「介護予防評価事業の企画・実施・評価研修会」  
（平成 24 年 10 月～12 月）
- ・ 出雲市社会福祉協議会「平成 24 年度地域福祉シンポジウム」（平成 25 年 2 月）
- ・ 大分県竹田市社会福祉協議会「第 8 回社会福祉大会」（平成 24 年 11 月）
- ・ 津山市ボランティア交流会研修（平成 25 年 2 月）
- ・ 山梨県北杜市「民生委員児童委員全体研修会」（平成 25 年 2 月）
- ・ 山梨県「山梨県地域包括支援センター職員研修」（平成 25 年 3 月）

他

### ○総合評価と今後の課題

#### （１）教育活動について

本年度は、地域福祉、地方自治についての専門書講読を中心に行った。さらにゼミ生を高知県内外の様々な実践現場へ同行し、実際の福祉現場から学ぶゼミを行った。この理論と実践からの学びを組み合わせながらゼミ内で議論を行うことにより、かなり高い知識と意識が育ったように思う。しかし、当初予定したいくつかの文献講読が残ったことは残念であった。授業においては、これまでと同じく、実際の具体的な事例を紹介しながら、これを基にした授業展開に取り組んだ。特に、本年度は、高知県内の動きや取り組みを中心にした事例提供を心がけた。理論が、具体的な姿として頭に思い浮かぶ授業の形を工夫しながら、理解ができる授業方法を工夫した。さらに、より実践に結びつく授業内容に努めていきたい。

#### （２）研究活動について

##### ・「実践的地域包括ケアシステム」について

今年度もさらに「実践的地域包括ケアシステム」のありかたについて、様々な地域での具体的な構築に取り組み、その実践内容を基にして研究を進めた。特に、今年度は、ケアシステムにおける小地域ケア会議の設立に向けて研究を進めた。

##### ・中山間地における地域福祉のあり方

中山間地における地域福祉の推進方法について、これまで取り組んできた岡山県津山市加茂物見地区での取り組みを住民・行政・社協などによるチーム連携しながら進め、より具体的な形で取り組んだ。この結果については、論文としてまとめた。



また、津山市中心部における高齢化率の高い城東地区においても、昨年度に引き続き取り組みを進め、空き家対策として、また地域づくりを目的とした新たな取り組み「じば子のおうち」を地域住民とともに設立していくこととした。これらの実践成果を基に高齢化の進む地域に入り、実態調査を試みた。この結果を基に次なる活動に入っていく。

### （3）社会活動について

#### ・「地域包括支援ネットワークシステム」構築への取り組み

高知県における地域包括支援ネットワークシステムの構築に向けて、より具体的な取り組みに向けての研修に取り組んだ。また本年度も、この計画に基づく地域福祉を実践していくための人材育成を図るため、高知県社会福祉協議会とともに「高知型地域支援ワーカー研修」に関わり、その育成に努力した。さらに、本年度も、岡山県と山梨県での小地域ケア会議や地域ケア会議の取り組みも支援した。特に岡山県津山市においては、小地域ケア会議の全市内での構築に向けて、行政・社協・地域包括支援センターがチームを組み、モデル地区を設定し、取り組みを進めた。

さらに地域包括ケア会議については、3市町の委員として、本会議の機能化に努めた。

#### ・地域福祉活動計画の策定

今年度は、高知市地域福祉計画策定委員長として、計画策定に関わり、行政計画としての地域福祉計画と社協計画である地域福祉活動計画の一体的策定を行った。

#### ・地域福祉型商業への取り組み

岡山県久米郡商工会と協働し、岡山県助成事業として、中山間地における買い物支援の方法についての研究事業に取り組んだ。本年度は、介護予防・日常生活総合支援事業の開発に向けての研修とモデル事業に取り組んだ。

○ 研究活動

（１）学術論文

（原著）※査読有り（１件）

1. 杉原俊二「自分史分析に関する一考察（X）－うつ経験者の４テーマ分析法によるライフストーリーの生成（２）」『高知女子大学大学研究紀要（社会福祉学部編）』62, 1-18.（2013年3月）

（研究ノート、事例報告など）（20件）

1. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（22）－学者HのD短大教員と博士号取得（前篇）」『質的研究法』73, 2-7.（2012年4月）
2. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（23）－学者HのD短大教員と博士号取得（後篇）」『質的研究法』74, 2-7.（2012年5月）
3. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（１）－ある軍事研究者の語るウェーク島攻略戦－」『人間科学』43, 2-7.（2012年6月）
4. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（２）－ある軍事研究者の語る珊瑚海海戦（前篇）－」『人間科学』43, 8-13.（2012年6月）
5. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（24）－学者Hの４T法を通しての振り返り」『質的研究法』75, 2-5.（2012年6月）
6. 杉原俊二「『喪の作業』としての自分史（Ⅰ）中学・高校の頃－『こころ』のフィールドノート（21）」『質的研究法』76, 2-7.（2012年7月）
7. 杉原俊二「『喪の作業』としての自分史（Ⅱ）大学入試をめぐる思い出－『こころ』のフィールドノート（22）」『質的研究法』77, 2-7.（2012年8月）
8. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（３）－ある軍事研究者の語る珊瑚海海戦（後篇）－」『人間科学』44, 2-7.（2012年9月）
9. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（４）－ある軍事研究者の語るミッドウェー海戦（前篇）－」『人間科学』44, 8-13.（2012年9月）
10. 杉原俊二「『喪の作業』としての自分史（Ⅲ）大学院をめぐる思い出－『こころ』のフィールドノート（23）」『質的研究法』78, 2-7.（2012年9月）
11. 杉原俊二「『喪の作業』としての自分史（Ⅳ）結婚について－『こころ』のフィールドノート（24）」『質的研究法』79, 2-7.（2012年10月）
12. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（24）－牧師RNの神学大学時代」『質的研究法』80, 2-7.（2012年11月）
13. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（５）－ある軍事研究者の語るミッドウェー海戦（中篇）－」『人間科学』45, 2-7.（2012年12月）
14. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（６）－ある軍事研究者の語るミッドウェー海戦（後篇）－」『人間科学』45, 8-13.（2012年12月）
15. 杉原俊二「４テーマ分析法による自分史分析（25）－牧師RNの伝道師・大学院生時代」『質的研究法』81, 2-7.（2012年12月）

## 教育研究活動報告書（杉原 俊二）

16. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（26）－牧師RNの教会担当牧師時代」『質的研究法』82, 2-7.（2013年1月）
17. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（27）－牧師RNの巡回牧師時代」『質的研究法』83, 2-7.（2013年2月）
18. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（7）－ある元銀行員の語るプロ野球（前篇）－」『人間科学』46, 2-7.（2013年3月）
19. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（8）－ある元銀行員の語るプロ野球（後篇）－」『人間科学』46, 8-13.（2013年3月）
20. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（28）－牧師RNの経歴と振り返り」『質的研究法』84, 2-7.（2013年3月）

### （2）学会発表等（4件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援（2）－4T法中断・再開事例の検討－」日本家族研究・家族療学会第29回大会（山口県総合保健会館）2012年6月1日
2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法（3）－4T法の研究とKJ法とのかかわり－」第35回KJ法学会（川喜田研究所）2012年11月10日
3. 杉原俊二「東日本大震災と援助の在り方－臨床心理士・ソーシャルワーカーとしての立場から」（シンポジウム）日本人間科学研究会第7回学術大会・日本臨床社会心理学研究会第4回大会 合同学術集会（日本大学工学部）2012年12月1日
4. 杉原俊二「自分史分析・研究10年の流れ（2002～2011年）」（特別講演）日本人間科学研究会第7回学術大会・日本臨床社会心理学研究会第4回大会 合同学術集会（日本大学工学部）2012年12月2日

## ○教育活動

- （1）学部：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「子育て支援論」「面接技法」「虐待防止論」（2年生）「相談援助実習指導」（2・3年生）「相談援助実習」「相談援助演習（事後実習）」（3年生）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（4年生2名、3年生6名）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」（3年生6名）
- （2）大学院 人間生活学研究科（修士課程）：「児童福祉論」
- （3）大学院 健康生活科学研究科（博士課程）：「児童・家族福祉論」

## ○委員会活動

- （1）学部  
「教務委員長」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」「総務委員」「予算委員」
- （2）大学院 健康生活科学研究科  
「学務委員」

## ○社会的活動

### （１）社会活動

高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

### （２）学会など

日本人間科学研究会 常務理事・第7回学術集会（2012年12月開催）事務局長、KJ法学会 運営委員・編集委員、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）、1大学での博士論文審査者

### （３）講演など

平成24年度高知県児童福祉司講習会「児童福祉論」（10月12日、19日）、黒潮町研修会（2月21日）

## ○総合評価と課題

教育に関しては赴任4年目になり、70人定員（3年生まで）となり授業の工夫をした。特に、「面接技法」については、前半は全体での講義であったが、後半から2クラスに分けて演習を含む授業をおこなった。講義科目としては、一昨年度、昨年度と同様であり、講義ノートは充実してきている。ゼミでは、全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせておこなった。4年生2名が児童福祉施設へ就職できた。

研究に関しては、「うつ経験者の回復期支援法－自分史分析（4テーマ分析法）を用いた支援の効果－」が科学研究費補助金の基盤研究（C）に採用され、一定の研究成果を上げることができた。実践についての問い合わせも複数あり、次へとつながる研究にしたい。

委員会については、本年度も教務委員長の任にあたった。70人定員になっていくつもの問題があり、委員会内で「学部学生研究指導体制ワーキンググループ」を立ち上げ、8回の会議をもった。それらの結果を集約してカリキュラムの改正をおこなったが、実施することができなかった。様々な点で今後の課題となった。

社会的な活動については、地域貢献として昨年度までの「スクールソーシャルワーカー」の講演、新任者研修会を開くことができた。また、退職した新藤先生に代わって、東部ブロックのスーパービジョンも担当した。今後とも継続していき、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。また、学会誌の査読や他大学での学位論文審査といった、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、本年度は日本人間科学研究会第7回学術集会の事務局長を務め、大きな問題もなく終えることができた。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

# 住友 雄資

Yuji SUMITOMO

## ○研究活動

- ①学術論文 なし
- ②著書 なし
- ③学会等発表 なし
- ④その他 なし
- ⑤学内外資金獲得 平成 24 年度厚生労働省科学研究費「精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の開発と普及に関する研究」分担研究者，270 万円

## ○教育活動

[学部]

- ・「福祉対象入門」
- ・「福祉援助入門」
- ・「福祉研究法」
- ・「精神保健福祉援助技術各論」
- ・「精神保健福祉援助実習」
- ・「精神保健福祉援助演習」

[大学院]人間生活学研究科（修士課程）

- ・精神科ソーシャルワーク論
- ・課題研究演習（正指導教員 1 名）

[大学院]健康生活科学研究科（博士後期課程）

- ・精神障害者福祉論
- ・社会福祉特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（主指導教員 3 名）

[他大学院] 広島国際大学大学院医療・福祉科学研究科（修士課程） 非常勤講師

- ・精神科地域リハビリテーション特論

## ○委員会活動

[学部] 特になし

[大学院] 人間生活学研究科（修士課程）

- ・研究科長

[全学]

- ・教育研究審議会委員
- ・大学院入試実施委員会 副委員長
- ・大学院見直し検討委員会委員
- ・非常勤講師審査会委員

## ○社会的活動

[学会・審議会・団体委員など]

- ・精神保健福祉士試験委員会副委員長
- ・日本精神保健福祉学会 理事兼事務局長
- ・一般社団法人日本社会福祉学会 代議員兼査読委員
- ・日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
- ・一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 副会長

## ○総合評価と課題

学内業務では、教育面として学部教育と大学院教育（修士課程・博士後期課程）を担った。学内行政では、人間生活学研究科長として、新たな入試制度を実施し、本研究科の見直しを検討する大学院見直し検討委員会への参加をとおして具体的な見直し案の検討をおこなった。本研究科の定員割れは続いているが、数年ぶりに来年度 10 名を超える入学者数を確保できた。

学外業務では、今年度も精神保健福祉士試験委員会副委員長として、試験全体にかかわる業務を担った。また一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会副会長（総務・出版担当）を担った。さらに日本精神保健福祉学会の理事（総務担当）兼事務局長としての業務を行った。なお研究への取り組みが少ないことが最大かつ重要な課題である。

今年度をもって本学を退職し、2013 年度からは福岡県立大学に移ることとなった。本学 15 年と前職（高知女子大学保育短期大学部 5 年）の計 20 年間、高知県で大変お世話になった。記して感謝申し上げたい。本学の今後ますますの発展を福岡の地から祈念している。

# 田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

## ○ 研究活動

### (1) 報告書

- ・ これからの特別支援教育のあり方を考える会（代表 田中きよむ）「高知県における障害乳幼児の保健・医療・福祉・教育の連携に向けて」（2012年5月）
- ・ 三菱UFJ&リサーチコンサルティング「地域共生拠点づくりの手引き」（厚生労働省平成24年度セーフティネット支援対策等事業費補助金（社会福祉推進事業分）「共生型福祉施設の設置運営支援事業」ワーキンググループ座長 田中きよむ）2013年3月
- ・ 田中きよむ「安芸高田市川根地域の住民主体の地域づくり」『ふまにすむす』第24号、pp.53-72（2013年3月）
- ・ 「香美市における移住ニーズ調査結果報告」（研究協力 田中きよむ）2013年3月

## ○ 教育活動

### (1) 学部

#### （専門教育）

1. 社会保障論
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
4. 低所得者に対する支援と生活保護制度
5. 保健医療福祉論
6. 社会保障と看護

#### （共通教育）

1. 現代社会論

### (2) 大学院

#### （修士課程）

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習

## ○ 委員会活動

- ・ (学部) 人事委員会委員、自己点検評価委員会委員、高知県立大学社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員会委員長
- ・ (全学) 入試監査委員会委員長（学部入試）、入試監査委員会委員長（大学院入試）

## ○ 社会的活動

### （委員等）

- ・ 運営適正化委員会委員
- ・ 高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・ 高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・ 高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・ 県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・ 高知県介護ケア研究会会長
- ・ 全国障害者問題研究会高知支部長
- ・ 高知県社会保障推進協議会会長
- ・ 高知県保育運動連絡会会長
- ・ 「これからの特別支援教育のあり方を考える会」会長

## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知県地域年金事業運営調整会議 委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知県弁護士会資格審査会予備委員
- ・厚生労働省平成 24 年度セーフティネット支援対策等事業費補助金（社会福祉推進事業分）「共生型福祉施設の設置運営支援事業」ワーキンググループ座長

（講演等）

- ・後期高齢者医療制度学習会実行委員会講演「近年の社会保障制度改革の動向と問題点—社会保障・税の一体改革を中心に—」（2012 年 4 月）
- ・安芸市社会福祉大会講演（2012 年 4 月）
- ・高知県民生委員児童委員連合会議会シンポジウム・コーディネーター（2012 年 5 月）
- ・津野町地域福祉活動計画（郷地区住民座談会）アドバイザー（2012 年 5 月）
- ・佐川町社会福祉協議会主催講演（2012 年 6 月）
- ・ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会シンポジウム「生活保護とソーシャルワーク」コーディネーター（2012 年 6 月）
- ・生活保護学習会講師「社会保障の現段階」（2012 年 6 月）
- ・高知県介護支援専門員更新専門研修講師「人格の尊重及び権利擁護」（2012 年 6 月）
- ・徳島県民医連講演「社会保障・税の一体改革をめぐる動向と問題点」（2012 年 6 月）
- ・高知西年金事務所主催講演「年金不安と払拭の方策は」（2012 年 6 月）
- ・高知市民の大学講師①「医療・介護の不安と解決策を求めて」（2012 年 6 月）
- ・佐川町地域福祉計画（斗賀野地区）アドバイザー（2012 年 6 月・9 月）
- ・高知県社会福祉協議会地域支援ワーカー研修・講師（2012 年 6 月）
- ・高知市民の大学講師②「年金不安と払拭の方策は」（2012 年 6 月）
- ・高知県母親大会障害児部会助言者（2012 年 7 月）
- ・高知県社会福祉協議会福祉職場新任研修・講師（2012 年 7 月）
- ・佐川町地域福祉計画（黒岩地区・佐川地区・加茂地区）アドバイザー（2012 年 7 月）
- ・高知県司法書士会講演「社会保障と税の一体改革をめぐる動向とゆくえ」（2012 年 7 月）
- ・中央西地域福祉実践活動研修会コーディネーター（2012 年 7 月）
- ・土佐清水市地域福祉計画（布地区）アドバイザー（2012 年 7 月）
- ・高知市民の大学講師③「総合討論」（2012 年 7 月）
- ・視力障害者の会女性部学習会講師「T P P と私たちの暮らし」（2012 年 7 月）
- ・第 10 回四国地域福祉実践セミナー分科会アドバイザー（2012 年 7 月）
- ・NALC 土佐・安田講演「少子高齢社会の中、地域でできる子ども支援とは」（2012 年 7 月）
- ・仁淀川町地域福祉計画アドバイザー（2012 年 7 月）
- ・高知県立大学社会福祉学部オープンキャンパス講師「住民主体の福祉型地域づくりの条件」（2012 年 8 月）
- ・佐川町児童虐待事例研修コーディネーター（2012 年 8 月）
- ・全国障害者問題研究会分科会助言者（2012 年 8 月）
- ・土佐清水市地域福祉計画（貝の川地区）アドバイザー（2012 年 8 月）
- ・第 45 回全国手話通訳問題研究集会 in 高知シンポジウム・コーディネーター（2012 年 8 月）
- ・香美市立大栃中学校教職員研修「福祉教育・地域づくりと子どもの発達」（2012 年 8 月）



## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・介護労働安定センター介護職員関係養成研修講師（2012年8月）
- ・福祉有償運送研修講師（2012年9月）
- ・NPO在宅ケアネットワーク全国のつどい in 高知 地域づくり部会座長（2012年8月）
- ・仁淀川町社会福祉協議会役職員研修・講師（2012年9月）
- ・土佐清水市地域福祉計画（下川口地区）アドバイザー（2012年9月）
- ・佐川町地域福祉計画（尾川地区・黒岩地区）アドバイザー（2012年9月）
- ・土佐清水市斧積地区講演「地域福祉活動計画を住民の手に」（2012年9月）
- ・仁淀川町民生委員研修・講師（2012年10月）
- ・香美市地域福祉計画住民座談会（物部・香北・山田地区）助言（2012年10・11月）
- ・佐川町地域福祉計画（佐川地区・加茂地区）アドバイザー（2012年10月）
- ・日本高齢者大会学習講座講師「TPPでどうなる 日本の明日と高齢者の暮らし」（2012年10月）
- ・ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会シンポジウム・コーディネーター（2012年10月）
- ・土佐清水市地域福祉計画（足摺地区・松尾地区）アドバイザー（2012年10月）
- ・脳外傷リハビリ講習会コーディネーター（2012年10月）
- ・日韓合同院生セミナー講師「日本における高齢者の社会保障」（2012年10月）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座講師「年金・医療・介護システムの動向とゆくえ」（2012年11月）
- ・介護予防一般高齢者施策事業（安田町）アドバイザー（2012年11月）
- ・高知県社会福祉協議会事例検討会助言者（2012年11月）
- ・佐川町地域福祉計画（尾川地区）アドバイザー（2012年11月）
- ・土佐清水市地域福祉計画（三崎地区）アドバイザー（2012年11月）
- ・本山町職員研修講師「子ども・子育て新システムについて」（2012年11月）
- ・全保連四国ブロック会議講師「子ども・子育て新システムについて」（2012年11月）
- ・仁淀川町地域福祉活動計画アドバイザー（仁淀地区・池川地区）（2012年11月）
- ・仁淀川町地域福祉活動計画アドバイザー（吾川・仁淀・池川地区）（2012年12月）
- ・高知県地域福祉トップセミナー講師（2012年12月）
- ・児童虐待防止学会シンポジウム・コーディネーターおよびポスターセッション座長（2012年12月）
- ・佐川町地域福祉計画作業部会アドバイザー（2012年12月・2013年1月）
- ・生活保護学習会講師「阿世活保護基準の引下げをめぐって」（2012年12月）
- ・高知県立大学地域教育研究センター地域活性化フォーラム「支え合う地域社会づくりを目指して」講演・シンポジウムコーディネーター（2012年12月）
- ・介護予防一般高齢者施策事業（奈半利町・北川村）アドバイザー（2012年11月）
- ・安芸市地域福祉（活動）計画地区別評価アドバイザー（2013年1月・2月）
- ・第3回四国移動支援ネットワーク交流会講演「高知県の移動支援の現状と課題」（2013年1月）
- ・高知市生活と健康を守る会記念講演「『社会保障制度改革推進法』で福祉はどうなる」（2013年2月）
- ・仁淀川町地域福祉活動計画作業部会アドバイザー（2013年2月）
- ・佐川町地域福祉計画策定委員会アドバイザー（2013年2月・3月）

## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・後期高齢者医療制度学習会実行委員会講演「社会保障制度改革推進法について」（2013年2月）
- ・ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会シンポジウム・コーディネーター（2013年2月）
- ・介護ケア研究会講師「高知県における地域福祉（活動）計画と支え合いのまち・むらづくり」（2013年3月）
- ・潮江診療所無料低額診療事業三周年記念シンポジウム「ネットワークの力で貧困から命を救おう」コーディネーター（2013年3月）
- ・土佐清水市地域福祉計画評価委員会アドバイザー（2013年3月）
- ・尾川中央保育園職員研修講師「子ども・子育て新システムについて」（2013年3月）
- ・佐川町あったかふれあいセンター職員研修講師「住民主体の地域づくり―点・円・面の展開―」（2013年3月）

### ○総合評価と課題

- ・ 研究面では、限界集落に関するこれまでの研究成果（2008～10年度調査中心）をとりまとめつつあるが、年度内の出版化には至らなかった。  
2013年度は、これまでの限界集落に関する調査研究成果の出版化を進めるとともに、2012年度の研究成果報告書の作成、および社会保障制度論の研究成果公表を予定している。これらはいずれも、年度内の作成、公表に至らず、反省すべき点である。また、限界集落における個別支援に焦点を当てた2013年度の継続課題（科研費共同研究）に取り組む。これまでの地域福祉研究の成果作成の方向についても検討したい。
- ・ 教育面では、講義に関しては、学生定員が多くなるとともに、学生の理解度の把握が難しくなっている面や、学習姿勢の個別差が大きくなっている面もうかがえる。人数が多くなるなかでも、個々人の理解力、習熟度の把握方法を工夫しながら、社会保障制度や低所得者支援制度、福祉行財政に関する基礎知識と理解能力、応用力を段階的に高めてゆけるような配慮が必要である。学生の知的好奇心を絶えず刺激しながら、各制度の個別理解と総合的理解の両面に配慮した授業を心がけたい。  
専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態を調査して理論化してゆく調査研究能力と現実問題に答えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけたい。文献研究の基本をも身につけつつ、様々な地域福祉領域に関心をもって自分の問題関心を深め、卒論作成ができるように配慮した指導を進めてゆきたい。
- ・ 社会的活動は、県内各地の社会福祉協議会、団体、住民との関わりをもたせていただいたことにより、教育研究を進めてゆくための基礎を培うことができている。

# 長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

## ○研究活動

### （1）論文（2件）

- ・ 長澤紀美子(2012)「ケアの質の評価指標の開発と課題－国際的な動向とイギリスにおけるアウトカム指標を中心に」季刊社会保障研究第48巻第2号, p.133-151.
- ・ 長澤紀美子(2013)「イギリスの社会的ケアにおける業績測定－「ニューレイバー」政権下の展開」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』第62号, p.19-26.

### （2）学会報告（3件）

- ・ 長澤紀美子(2012)「イギリス福祉サービスにおける自治体評価の展開と課題」社会政策学会第124回（2012年春季）大会（駒澤大学）平成24年5月27日
- ・ 長澤紀美子(2012) 上記 社会政策学会第124回大会 テーマ別分科会第4「保健医療福祉部会」「ポスト福祉国家における政策評価：行政運営との関わりで」におけるコメンテーター
- ・ 長澤紀美子(2012)「イギリスにおけるケアのアウトカム指標－研究の知見と政策動向を中心に－」50回日本医療・病院管理学会学術総会（東京；学術総合センター）平成24年10月19日

### （3）学外の競争的資金の獲得状況（3件）

- ①文部科学省科学研究費補助金（基盤研究B一般）「利用者本位の介護サービスの提供に関する実証研究」（主任研究者：小山秀夫・兵庫県立大学教授）（平成21～24年度）における分担研究者
- ②厚生労働省科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）（H22-長寿-指定-008）「介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発」（主任研究者：近藤克則・日本福祉大学教授）（平成22～24年度）における分担研究者
- ③平成24年度厚生労働省科学研究費・長寿科学総合研究推進事業補助金（国際共同研究事業）「日英の高齢者の健康と健康格差の国際比較研究」（主任研究者：近藤克則・日本福祉大学教授）における分担研究者

### （4）研究報告書（3件）

- ・ 長澤紀美子（2013）「イギリスにおけるケアの質評価の手法の開発と課題」（「介護保険の総合的政策評価ベンチマーキングシステムの開発」（上記競争的資金②）分担研究報告書）
- ・ 長澤紀美子（2013）「イギリスにおける介護領域のアウトカム評価に係わる動向とベンチマークとしての活用に関わる課題」（上記競争的資金③）分担研究報告書）

（5）資 料

- ・一般社団法人・精神保健福祉士養成校協会（編）（2012）「現代社会と福祉」『精神保健福祉士国家試験・模擬問題集2013』中央法規p.111-115, 183-185（問題編）, p.126-130, p.204-206（解答編）

○教 育 活 動

（1）学 部

- ・講義科目「現代社会と福祉」「国際福祉論」「女性福祉論」
- ・実習・演習科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」  
「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」受講者6名, 「福祉研究演習Ⅲ」受講者3名

（2）大学院人間生活学研究科

- ・「国際福祉政策論」／オムニバス：「人間生活福祉政策論」
- ・副指導教員としてM1生3名, 主指導教員としてM2生1名を担当.

○委員会活動

- 【全 学】全学国際交流委員長（留学生確保プロジェクトの長と兼任）
- 【学 部】学部総務・予算委員, 学部教務委員
- 【大学院】人間生活学研究科学学位審査委員・大学院選出国際交流委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・高知市行政改革推進委員

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

- ・3月にイギリスのケント大学, ロンドン大学(LSE)を訪問, ケアの指標に関する研修会に参加し, 両大学やヨーロッパの研究者, 自治体ソーシャルサービス担当者等と意見交換を行った. 日本での適用可能性の検討について研究を進めることが課題である.

（2）教育活動について

- ・学部教育
  - ① 年同様, 「女性福祉論」の中で, 支援の現場（県女性相談支援センター, こうち男女共同参画センター「ソーレ」等）への訪問と支援者とのディスカッションの場を設定し, 女性の生活課題を体験的に理解する機会を設けた.
  - ② 「現代社会と福祉」では, 国立ハンセン病療養所MSWの卒業生を授業に招き, 患者を取り巻く偏見や社会復帰の困難さ, 支援のやりがいと難しさなど学生との間で双方向的な質疑の場を設定した.
- ・大学院教育
  - ① DNGL（災害看護グローバルリーダー養成プログラム）における国際連携プロジェクト,

国際セミナープロジェクト，学際連携プロジェクトを担当．今年度は協力校訪問や元ハワイ州教育委員の招聘等を行った．平成 26 年 4 月の開講に向けて，今後担当科目やプロジェクトの構想を具体化し，国際的・学際的な教育研究環境を整備することが課題である．

(3) 学内業務について

- ・全学国際交流委員長として新規に交流協定を締結するとともに，学部選出国際交流委員（鳩間講師）を始めとする教員の協力のもと，学部生の国際交流の活性化に向けた取り組みを行った．社会福祉学部に関係する事項としては以下のとおりである．
- ①11 月～12 月にかけて南学長，健康栄養学部国際交流委員（島田郁子講師）とマレーシア国立サバ大学を訪問し，交流協定を締結するとともに，サバ大ソーシャルワーク学部教員と教員間の研究交流や学生の交換留学の可能性について意見交換を行った．
- ②マレーシア訪問時に，南学長・島田講師と共に，現在青年海外協力隊員としてマレーシア国内の知的障がい者の就労支援を行っている卒業生（三期生）大塚亜季さんと面談した．数は少ないものの，JICA や青年海外協力隊などで専門職として国際的な貢献を行っている社会福祉学部の卒業生が存在することが分かった．
- ③学部選出国際交流委員（鳩間講師）や介護コース担当教員の協力のもと，イタリア，中国・台湾からの留学生を対象とした池デイを開催し，介護体験プログラムや学生との交流会を実施し，学生が日常的に異文化に触れる機会を設けた．
- ④今年度全学エルムズ大学短期研修（2013/2/24～3/12：社会福祉学部からは 2 名が参加）の引率を担当した．その際，貧困地域のヒスパニック系のコミュニティ・ベースド NPO による保育所や HIV/AIDS 支援の現場に同行し，解説を行った．社会福祉学部の学生を始め，4 学部の学生が各々の専門性の視点から活発な質疑をおこない，他学部の専門性について学生間で理解を深めたことが印象的であった．また滞在中に，エルムズ大学ソーシャルワーク学部の教員と初めて意見交換の機会をもち，ソーシャルワークに特化したプログラムの検討を開始した．
- ⑤担当科目「国際福祉論」と連動して，社会福祉学部独自のプログラムとして，加藤助教によるコーディネート・引率指導のもと，昨年度（退任された新藤講師が開発・引率）に引き続き，タイ国際ソーシャルワーク研修を実施した．
- ・全学留学生確保プロジェクトとして，役員会や部局長会議において，留学生確保に向けた本学の課題を取りまとめて報告し，留学生確保のための学際的なプログラムの構想を提案した．予算や学部教育の専門性に関わる制約が大きいものの，留学生受入の拡大に向けた長期的検討が必要である．

○ 研究活動

学会活動 第 59 回日本病跡学会総会理事会出席（2012. 6. 23、東京芸大）

国内学会発表：沢庵宗彭和尚『不動智神妙録』を読む（第 16 回精神医学史学会、  
2012. 10. 28、京都大学）

海外学会発表：Psychopharmacology and Psychopathology of Dopaminergic System  
(2012. 6. 3) Sweden, Stockholm

Naoshima, an island of modern art-What did the artists aim to do?  
(2012. 9. 15) France, Toulouse

発表論文：Temples in Japan and Mental Hospital (Psycho-social Welfare  
(高知県立大学紀要 Vol/61. 175-180)

精神医学温故知新—日本のお寺と（精神保健）社会福祉—

（室医会報学術特集号 Vol. 15. 25-26）

「沢庵宗彭和尚『不動智神妙録』を読む」ふまにすむす 24 号、28-29

研 修：芸術療法学会芸術療法アドバンストコース研修（8. 10~11）

○ 教育活動

担当科目：精神医学、精神保健学、人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス  
福祉研究演習、地域福祉活動 他

○ 委員会活動

人権委員会委員長

健康管理センター運営委員

○ 社会的活動

学外地域貢献：四万十市渡川病院非常勤医師（2012 年 1 月～3 月）

室戸・山本病院 非常勤医師（2012 年 6 月～11 月）

金城学院大学・北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤（集中講義）  
講師

在家僧侶活動

- ・東城家 1 周忌（2012. 4. 14）八柱霊園 約 15 人（曹洞宗）
- ・越路家 7 回忌（2012. 4. 15）新三郷シティメモリア霊園（臨済宗）
- ・吉田家 7 年忌法要（2012. 4. 21）5 人 総武霊園（臨済宗）
- ・佐藤家 1 周忌法要（2012. 4. 22）約 15 人 川口霊園（曹洞宗）
- ・管家 1 周忌法要（2012. 12. 8）約 15 人 所沢櫛聖地霊園（曹洞宗）
- ・西沢家 100 日忌・埋葬納骨法要（2012. 12. 15）約 10 人 さいたま市西彩の  
恵霊園（臨済宗）
- ・鈴木家 1 周忌納骨埋葬法要（2013. 1. 12）約 10 人 さいたまやすらぎの杜  
霊園

## 教育研究活動報告書（林 美朗）

### ○総合評価及び今後の課題

赴任4年目にしては、新しい環境でかなり研究活動ができたように思われる。しかし高血圧で体調が悪く、その不調を押して参加した学会発表や遠くフランスやスウェーデンまで遠征して発表した国際会議の成果が今のところまだ活字として残せていないのは残念としか言う他ない。また今年は大阪応徳院、近江八幡ボーダーレス美術館等への見学旅行の引率も機会がなかった。平成25年度は、担当授業科目も増えるし、新しい役職も任される。非常勤医師勤務先の病院も変わる。在家僧侶活動も数が増えるだろう。ゼミも復活する。健康には十分留意し精進して、研究活動中心に（科研費取得は絶対の天命）猶頑張りたい！

## ○研究活動

## ○教育活動

### 講義

#### 1 「コンピュータリテラシー」（共通教養教育リテラシー科目）

池キャンパスの本部・健康栄養学部棟2階と共用棟2階の情報演習室において、前期に池キャンパス3学部の新生を対象とした5クラス（看護学部2、社会福祉学部2、健康栄養学部1）を担当した。授業では、大学での学びにパソコンを活用できるように、ワープロソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の基本的な操作を中心に実習形式で行った。情報演習室では Office2007 を使用するが、授業のテキストは前年度に使用した Office2007 準拠から Office2010 準拠に変更した。新生が保有する PC の大部分あるいは新たに PC を購入した場合にインストールされているのは Office2010 であるからである。Word・Excel・PowerPoint2007 と Word・Excel・PowerPoint 2010 で機能や操作法が大きく異なる点については、補足資料等を使い説明した。

#### 2 「社会福祉特別演習 I」（社会福祉学部専門科目）

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として、情報演習室において Word、Excel、PowerPoint 操作のステップアップを目的とした実習形式の授業を後期に行った。課題として PowerPoint を用いたプレゼンテーションを受講生に課した。

#### 3 「特別講義 V（データ解析論）」（大学院人間生活学研究科共通科目）

地域教育研究センターの谷本教授と分担して担当し、主として Excel の統計関数を用いた相関分析・回帰分析やピボットテーブルによるクロス集計に関する実習形式の集中授業を行った。

## ○委員会活動

#### 1 部局長会議、教育研究審議会

社会福祉学部長として部局長会議と教育研究審議会の委員となり、大学運営に参画するとともに社会福祉学部の教務や人事関係等の案件を提議した。また、教育研究審議会のもとに設置される他学部教員や大学院担当教員に関する人事委員会の委員を務めた。

#### 2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、部局長会議や教育研究審議会の審議内容や決定事項を報告して周知すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

#### 3 学部人事検討会

学部人事検討会委員長として、社会福祉学部の採用人事案件をまとめ、教育研究審議会に提案して承認を得られた3件の教員公募を実施した。そして、教育研究審議会のもとに設置される社会福祉学部教員に関する人事委員会の委員長として、応募者の選考を行った。

#### 4 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、2013年度入学試験の円滑な実施に努めた。また、県内外で開催された進学相談会に出席して、社会福祉学部の PR と志願者の確保に努めた。



○社 会 活 動

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、2002年度に学部長就任して以来、研究活動は休眠状態である。2002年度から2011年度まで学部長を5期10年務めたが、さらに再選されたので、2012～2013年度に最後となる6期目を務めることになる。

男女共学の高知県立大学として2年目となる2012年度は、男子学生数も増え、4回生のみが30名入学定員のクラスで、1～3回生は学部拡充後の70名入学定員のクラスとなり、学生数が250名を超えた。そして、3月には最後の30名入学定員クラスである12期生が卒業した。教員数も昨年度より1名増えて25名となり、1回生から4回生まで全て70名入学定員のクラスとなる2013年度に向けて、教育体制が整ってきたように思えたが、2012年度末に中核となる教授2名と講師1名が退職する事態となった。教員体制を再構築することが課題となる。

# 丸 岡 利 則

Toshinori MARUOKA

## ○研究活動

### （1）論文

- ・丸岡利則（2013）「社会福祉学と二元論」（高知県立大学 社会福祉学部紀要）  
第62巻、27-42頁

### （2）学会発表

なし

### （3）研究会

- ・丸岡利則（2012）発表『ソーシャル・ケア研究会』（於：大阪人間科学大学研究室）  
「ソーシャル・ケアにおける人間関係」の要旨発表

## ○教育活動

学部担当科目

1. 「相談援助の基盤と専門職」
2. 「社会保障と生活」
3. 「相談援助演習」
4. 「相談援助実習指導」
5. 「相談援助実習」

## ○委員会活動

1. （全学）法人災害対策プロジェクト・学外連携災害対応部会責任者
2. （学部）紀要編集委員、倫理審査委員

## ○社会活動

### 1. 委員等

- ・社会福祉法人あけぼの福祉会（監事）2003年3月～
- ・高知県社会福祉協議会日常生活支援事業契約締結審査会委員長 2011年11月～
- ・高知県共同募金会評議員および配分委員 2012年6月～

○総合評価と今後の課題

前年度の教育と研究、大学運営についての自己評価は、以下のとおりである。

まず、教育については、とりわけ進展が見られなかったが、それは、まさに教育は研究の裏付けなしには何も進展しないことを痛感した。

そして、研究面では、理論福祉学という独自の研究成果をまとめることもできず、まったく進展がなかった。これはまことに不徳の致すところである。今後の課題は、独自の社会福祉学の論攷から導いた「理論福祉学」の成果を世間に懇えたいと考えている。

# 宮上 多加子

Takako MIYAUE

## ○研究活動

### （1）論文

- ・宮上多加子（2012）離職者を対象とした介護福祉士養成教育における社会人学生の認識－学びの経験に関する個別面接調査に基づく質的分析－『介護福祉教育』17（2），98-106.
- ・宮上多加子・田中眞希（2013）介護福祉士養成教育における社会人学生の学びのプロセス－離職者訓練生と介護雇用プログラム生の学年による変化－『中国・四国社会福祉研究』2，13-19.

### （2）学会発表

- ・宮上多加子・田中眞希：介護福祉士養成教育における社会人学生の学びの構造－離職者訓練生の学年による変化－，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第44回大会（岡山），2012年7月.
- ・宮上多加子・田中眞希：介護福祉士養成教育における社会人学生の学びのプロセス－離職者を対象とした介護雇用プログラム生の学年変化－，第19回日本介護福祉教育学会大会（神戸）2012年9月.
- ・田中眞希・宮上多加子：離職者を対象とした介護人材養成教育の現状と課題，第20回日本介護福祉学会大会（京都），2012年9月.

## ○教育活動

講義の概要

[学部]

### （1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース2回生（前期）の授業である。ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMI理論」の基礎と、介護過程の概要について講義した。

### （2）「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」「こころとからだのしくみⅡ」「発達と老化の理解Ⅱ」「生活支援技術Ⅳ」

いずれも、介護福祉コース2回生（後期）と3回生（前期）の授業である。オムニバスの科目が多いため、各科目の内容を整理して担当者間で連携した授業を工夫していく必要がある。

### （3）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

研究活動に関する基礎的な力を身に付けることを目標として、少人数ゼミで継続的な指導を行った。3回生の受講者は5名、4回生の受講者は3名であった。なお、演習の内容と成果については、ゼミ記録として冊子にまとめた。

### （4）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」

ゼミ生を中心とした少人数の受講者であったが、学外の病院・施設の見学や学会への参加等を通して、実践的な内容について理解を深める工夫をした。

### （5）「保育学（実習および家庭看護を含む）」

健康栄養学部にて開講されている科目であり、オムニバスで担当した。

## 教育研究活動報告書（宮上 多加子）

[ 大学院（人間生活学研究科） ]

### （１）「介護福祉論」

介護福祉に関係した理論や研究論文の紹介，介護・看護現場におけるケアの動向等を概観し，介護福祉学が果たす役割と課題に関する検討を行った。

### （２）論文指導

正指導教員としてM2生1名，副指導教員としてM1生2名，M2生2名を担当した。大学院(M)研究員は2名を受け入れた。修士論文作成に関するディスカッションの場として，院生だけでなく大学院研究員の参加も募り，大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。

[ 大学院（健康生活科学研究科） ]

正指導教員として院生1名，副指導教員として，院生9名を担当した。

## ○委員会活動

[ 全学 ]

地域教育研究センターキャリア支援部会長

大学院見直し検討委員会委員

[ 学部 ]

学部総務予算委員会（委員長）

学部人事関係検討会／自己点検評価委員会

学部倫理審査委員会委員

学部教務委員会委員

[ 大学院（健康生活科学研究科） ]

入試実施委員

## ○社会的活動

高知市民生委員推薦会委員

高知県福祉基金理事

高知県医療審議会委員

県立高等学校再編振興計画検討委員会委員

ナイチンゲールKOMIケア学会理事

## ○総合評価と今後の課題

全学委員としては，新設された地域教育研究センターのキャリア支援部会長として，在学生及び一般県民に対するキャリア支援に関する事業を検討し実施しました。科研費の助成を受けた研究テーマも離職者に対する介護福祉士養成教育に関するものでしたので，今年度は「就職」「キャリア」がキーワードとなり，組織と人材活用について考えることが多かった年でした。

また，平成26年度から本学大学院が改編されることに伴い，大学院見直しWGのメンバーとしてカリキュラム編成等を検討しました。大学や大学院における社会福祉領域の存在をアピールしていく必要性や，そのためには，まず学部の基盤を固めることなど，少し客観的に学部の現状を見る機会にもなったと思います。

○研究活動

（1）論文

なし

（2）学会発表

なし

○教育活動

講義の概要

1. 「こころとからだのしくみ I」
2. 「発達と老化の理解 I」
3. 「生活支援技術 III」
4. 「介護過程 II」
5. 「介護過程 III」
6. 「介護福祉実習 I」
7. 「介護福祉実習 II-①」
8. 「介護福祉実習 II-②」
9. 「福祉研究演習 I」
10. 「福祉研究演習 II」

○委員会活動

全学：医療センター連携事業③

学部：介護コース主担当、学生委員会、実習委員会、2回生学年担当

○社会活動

- |          |  |
|----------|--|
| 2012年5月  | 日本介護福祉士養成校協会総会                           |
| 2012年5月  | 日本介護福祉士養成校協会 中四国ブロック会総会                  |
| 2012年7月  | 日本介護福祉士養成校協会 高知県支部会                      |
| 2012年7月  | KOMI 理論基礎編学習会・事例検討会                      |
| 2012年9月  | 日本介護福祉士養成校協会 中四国ブロック会総会                  |
| 2012年10月 | 第5回日本身体障害者補助犬学会 学術大会                     |
| 2012年11月 | 日本介護福祉士養成校協会総会・全国教職員研修会                  |
| 2013年2月  | 「高知の福祉をよりよくカエル実践発表会」第1回コレスパ福祉 in 高知（審査員） |
| 2013年2月  | 兵庫県ホームホスピスの仲間たちの報告から「暮らしの中で“死にゆくこと”      |
| 2013年3月  | 日本介護福祉士養成校協会 中四国ブロック会会議                  |

### ○公開講座等

1. 2012年8月 「オープンキャンパス体験授業、介護機器体験・ミシン体験」
2. 2012年8月 防災訓練1（トリアージ）
3. 2012年9月 防災訓練2（模擬患者・重障者）
4. 2013年3月 2012年度 実習連絡協議会

### ○その他

1. 2012年7月 学会・研究活動報告会 研究活動報告
2. 2012年11月 介護福祉課程コースⅠ期生ケーススタディ発表会
3. 2012年11月 こうち介護の日2012（高知中央公園）「プチリラクゼーション体験」  
2012年11月

### ○総合評価と今後の課題

学年担当教員としましては、14期生も2回生となり、後輩ができました。特に、男子学生としては、新入の男子学生ができたことによって注目度が変化することと思われます。

学習面におきましても、専門科目や実習関連科目など、本格的な学習が必要になりますが、新鮮な気持ちを失うことなく、各自の目的に向かって着実に進んでほしいと思っています。下回生の存在が双方にとって良い影響となることを期待しています。

介護福祉課程コースにおきましては、3年目を迎え、18名の新入生中4名の男子学生が本コースの授業や演習にと取り組みました。2回生の3名の男子学生と合わせますと、7名になりました。本コースでも、今までとは一味違った新鮮な趣で進行しています。

また、本コース1期生の17名は、450時間の実習時間を全て終了することができました。さらに、全員によるケーススタディの発表会には、外部からも熱心にご参加いただきました。このように全員が無事終了できたことを嬉しく思いますと同時に、多大なご協力があったからこそ可能となったのだと、各方面に感謝しております。

次年度は、本コースも完成年度を迎え、1回生から4回生までが初めて揃いますと同時に、初の卒業・就職という新たな局面を迎えることとなります。これらのことも含めまして、今後の実習や学習を効果的に円滑に進めるために教員が一丸になって進めて参りたいと考えています。

# 後藤 由美子

Yumiko GOTOH

## ○研究活動

(1) 論文

なし

(2) 学会発表

- ・後藤由美子・中井久子「介護施設における外国人就労の現状と課題-定住フィリピン人介護士調査から-」日本社会福祉学会第60回大会秋季大会（関西学院大学），2012年10月

(3) 研究資金の導入

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「地方都市・過疎地域における外国人介護者定着促進のための学術的研究」（研究分担者）（平成23年～25年度）

## ○教育活動

担当科目

- ・「介護の基本Ⅰ」
- ・「介護の基本Ⅱ」
- ・「介護の基本Ⅲ」
- ・「生活支援技術Ⅰ」
- ・「介護総合演習Ⅰ」
- ・教職課程「介護等体験」
- ・「介護実習Ⅰ」
- ・「介護実習Ⅱ①」
- ・「介護実習Ⅱ②」
- ・「福祉研究演習Ⅲ」

## ○委員会活動

全学：産官学研究部会員

学部：実習委員、就職委員、国試対策支援ワーキンググループ委員、  
学生委員（第12期生学年担当）

## ○社会的活動

- ・中土佐町高齢者の地域活動支援
- ・介護職員基礎研修講師
- ・介護実習指導者講習会講師
- ・高知県介護福祉士会監事
- ・日本認知症ケア学会評議員

## ○その他

- ・こうち介護の日2012「プチリラクゼーション」高知市中央公園（11月）



## ○総合評価及び今後の課題

### （1）教育活動

学年担当としては、12期生が4回生となり主に就職活動支援として学生との関わる機会が非常に多くありました。就職活動が長期間にわたる学生も在りましたが、最終的には就職希望者全員が福祉職に就くことができました。当初は一般職を希望していた学生も学部での学びから福祉職を選択したということは、就職委員や学部の先生方の支援協力があったなし得たと思っています。就職活動は、採用条件として国家資格取得者の場合も多く、国家試験対策支援と合わせ、総合的な支援の必要性を感じました。また、学年間の情報交換を活発に実施することも有効であると思いました。

福祉研究演習Ⅲでは、研究計画書の予定より若干進捗が遅れ、学生によっては国家試験のために学習時間を確保できるスケジュール指導をしたいと考えます。早期に研究課題に取り組めるよう関係機関の連繋や見学等を積極的に行っていききたいと思います。

介護福祉士養成課程は、3年目となり学外での介護配属実習（450時間）を終え「第1回介護実習報告会」を開催し、介護福祉士指定科目のすべてが修了しました。一連の介護福祉実習が修了し、今後も実習先との連携をはかり、実習段階や目標の内容からより効果的に実施できるよう検討していくことが必要であると思います。

また、学外での実践現場からより具体的に学び理解できるように授業を工夫していききたいと思います。

### （2）研究活動

研究の面は、積極的な取り組みをしていなかったため、次年度は努力していききたいと思います。今後も継続して四国・近畿地域を基盤に調査を行い、介護福祉人材に関する研究を進めていききたいと思います。また、学会への参加、高知の地域活動にも積極的に参加していききたいと思います。

### （3）その他

昨年度に引き続き高知県介護福祉士会の活動として、介護職員研修等に関わりました。介護の現場職員の研修を通して、実情を学ぶ機会となりました。今後は、特に郡部の介護の課題を中心に介護福祉人材の育成に参画し、地域社会に貢献できるよう努力していききたいと思います。

# 鈴木 孝典

Takanori SUZUKI

## ○研究活動

### （１）学術論文

- ・なし

### （２）著書

- ・鈴木孝典「相談援助にかかわる行政組織と民間組織」日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉サービスに関する制度とサービス（第二版）』中央法規出版、2013. 2、pp. 170-173.
- ・鈴木孝典「サービスの提供方法」西村昇、日開野博、山下正國編『五訂版 社会福祉概論-その基礎学習のために』中央法規出版、2013. 3、pp. 133-138.

### （３）その他

- ・鈴木孝典「グループホーム（共同生活援助）・ケアホーム（共同生活介護）・福祉ホーム」「ショートステイ」精神保健福祉白書編集委員会『精神保健福祉白書 2013 年版-障害者総合支援法の施行と障害者施策の行方』中央法規出版、2012. 12、pp. 52-53.

### （４）学会発表

- ・鈴木孝典「精神障害者グループホーム入居者の生活機能の評価に影響を与える要素」日本精神保健福祉学会第 1 回学術研究集会自由研究発表、2012. 6. 29、北海道・北星学園大学

### （５）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（若手(B)、課題番号:22730440、平成 22 年度-24 年度）  
研究代表者：鈴木孝典  
研究課題名：「精神障害者グループホームにおける支援評価モデルの開発的研究」
- ・平成 24 年度厚生労働科学研究補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））『精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の普及に関する研究』（課題番号:H24-精神-一般-006）、研究協力者  
研究代表者：石川到覚  
研究分担者：住友雄資

## ○教育活動

### （１）講義

[ 学部 ]

1. 「精神保健福祉論」
2. 「精神保健福祉援助実習」
3. 「精神保健福祉ふれあい実習」
4. 「精神保健福祉援助演習」
5. 「福祉研究演習Ⅰ」
6. 「福祉研究演習Ⅱ」
7. 「福祉研究演習Ⅲ」

[ 大学院 ]

1. 「人間生活論演習Ⅱ」
2. 「障害者福祉論」
3. 「精神保健福祉論」

(2) 講義以外

1. 実習支援

精神保健福祉援助実習の配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉論」、「精神医学」の2教科にかかわる受験対策講座を開講した。

○委員会活動等

(1) 学部

1. 実習委員
2. 情報処理委員
3. 入試実施委員
4. 教務委員
5. 個人情報保護・研究倫理審査委員

(2) 大学院

1. 人間生活学研究科学務委員

(3) 全学

1. 総合情報センター情報処理部会員
2. 入試実施委員（センター試験部会委員）

○社会的活動

(1) 委員等

1. 高知県精神保健福祉士協会 役員（運営委員）（2008年4月～）
2. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
3. 高知県自立支援協議会 委員（2009年2月～）
4. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会員（2010年4月～）
5. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
6. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
7. 高知県精神障害者アウトリーチ推進事業評価検討委員会 副会長（2012年3月～）
8. 高知市障害者計画等推進協議会 副会長（2010年4月～）
9. 高知市障害者計画等推進協議会公募委員選考委員会 会長（2012年3月）
10. 高知市自立支援協議会 相談支援のあり方に関する検討会 委員（2013年2月～）
11. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
12. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会 企画委員（2012年9月～2013年3月）
13. 日本精神保健福祉学会 事務局次長（2012年6月～）

(2) 講演等

1. 高知市障害者虐待対応研修会 講師（7月26日）
2. 高知県立大学社会福祉学部 高校生のための公開講座 講師（8月4日）
3. 高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座 講師（10月13日）
4. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会 企画委員（2012年9月～2013年3月）

## 教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

習会（厚生労働省補助金事業）「基礎分野講習会」、「実習分野講習会」 講師（2月4日、2月12(東京)、2月10日、3月26日(仙台)）

### （3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）

## ○総合評価及び今後の課題

### （1）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、教育内容の評価と改善を継続して実施した。具体的には、リアクションペーパーによる学習自己評価、中間的効果測定による理解度評価、課題演習による習熟度評価、の三段階による授業評価ポートフォリオを作成し、昨年度のポートフォリオに基づく授業の改善目標と今年度のポートフォリオとの比較から更なる授業の改善点の抽出に努めた。また、精神保健福祉士の新カリキュラムに対応した教育教材を開発することを目的に、テキスト及び事例集の作成に携わった。

来年度は、授業評価ポートフォリオを引き続き運用するとともに、精神保健福祉士新カリキュラムに対応した授業の実施に向けて使用する教材の選定を進めたい。また、精神保健福祉援助演習・実習の教育方法、内容、評価について、実践の観点から見直し、充実を図るために、実習指導者との協働による検討の機会を新たに設ける予定である。

### （2）研究活動について

今年度は、厚生労働科学研究補助金を受けた精神保健福祉士の実践評価に係る大規模な調査研究に研究協力者の立場で関与し、政策提言につながる精神保健福祉士の活動の評価に関する新たなエビデンスを得ることができた。また、この活動を通じて学外、分野外の研究者及び臨床家との研究交流の機会を得ることができた。来年度も引き続き、他の研究者との共同研究を図り、精神保健福祉士の活動の評価を進めたい。

また、昨年度からの研究課題である、相談支援専門員の研修体系の構築に向けた調査研究活動では、四国4県の相談支援専門員に係る研修の評価データを収集した。現在、得られた調査データを統計的手法によって比較検討しており、来年度は相談支援従事者研修の効果的なプログラム及び実施モデルの構築に向けて研究成果をまとめたい。

さらに、科学研究費補助金を活用したグループホームの評価支援ツールの開発及びツールの普及に向けた研究では、実践者との協働によるツールの信頼性、妥当性の検証作業を継続的に進めることができた。今年度は、科研費補助最後の年度となることから、来年度は新たに科研費を獲得し、ツールの開発及び普及に向けた研究を継続したい。

### （3）学内業務及び社会貢献活動について

まず、学内業務では、学部情報処理部会員として、情報処理部会員である鈴木裕介助教及び二本柳覚助教と協働して情報処理機材の保全を図るとともに、学部共有パソコンのセキュリティ対策を継続して実施した。来年度も引き続き、物理的な側面から学内ネットワークのセキュリティ対策を強化するとともに、教員、学生、大学院生に対して情報処理機材のセキュリティ意識の向上のための活動を強化したい。

次に、社会貢献活動では、高知県及び高知市の障害者計画及び障害福祉計画に係る協

## 教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

議会に委員の立場で参加し、昨年度新たに作成された計画の評価に携わることができた。くわえて、昨年度と同様に、高知県自立支援協議会人材育成部会、高知市自立支援協議会事務局（運営）会議及び同市生活支援検討会への参画を通して、教育と研究の両面から地域の相談支援専門員の養成及び実践力の向上に継続して関与することができた。来年度は、障害者総合支援法の施行に伴う、障害者の地域相談支援体制の変化を踏まえつつ、今年度の活動を発展させたい。

さらに、今年度は、厚生労働省の補助金事業である精神保健福祉実習演習担当教員講習会に企画委員及び講師の立場で係わり、実習演習担当教員の育成に寄与するとともに、教員を受講生とし講義を行うことで、自らの教育技能について他学の教員から評価を受ける貴重な機会を得た。来年度は、受講生の評価を参考に、教育技能の更新に励みたい。

# 西内 章

Akira NISHIUCHI

## ○ 研究活動

### ・ 研究会

1. ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（研究代表 太田義弘）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行う。
2. コンピュータアセスメント支援ツール「チームアセスメント支援ツール」（共同研究者 桃山学院大学丸山裕子教授、広島国際大学山口真里講師）との研究開発を行う。

### ・ 共同研究

1. 高知県医療ソーシャルワーカー協会大会部会委員 9 名と、「急性期病院の短期アプローチ」について学習会を重ねた（8月18日、8月26日、12月26日、2月18日、3月6日）。

## ○ 教育活動

### [共通教育科目]

- ① 「IP 概論」

### [学部専門科目]

- ① 「事例研究法」
- ② 「チームアプローチ」
- ③ 「ケアプラン策定法」
- ④ 「相談援助演習」
- ⑤ 「相談援助実習指導」
- ⑥ 「相談援助実習」
- ⑦ 「福祉研究演習Ⅰ」
- ⑧ 「福祉研究演習Ⅱ」
- ⑨ 「福祉研究演習Ⅲ」

### [大学院人間生活学研究科]

- ① ソーシャルワーク論
- ② 人間生活論演習Ⅱ

## ○ 委員会活動

- ① 共通教育専門委員
- ② 大学院人間生活学研究科広報委員
- ③ 大学院人間生活学研究科入試連絡委員
- ④ 学部教務委員

## ○社会的活動

[学外での活動]

- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知県社会福祉協議会生きがい健康づくり推進協議会委員
- ・社会福祉法人 コージー南国知的障害者通所授産施設なんこく第三者委員

[研修会講師・講演]

- ・高岡地区市町村教育委員会連合会 第4回教育支援部会講師「悩みを抱える児童生徒、保護者、教師への支援－学校と家庭・地域をつなぐアプローチ」（8月30日）
- ・中土佐町高齢者虐待防止学習会（中土佐町高齢者虐待防止ネットワーク参加者）・講師「高齢者虐待における事例検討について」中土佐町地域包括支援センター（9月13日）
- ・中土佐町高齢者虐待防止学習会（民生委員参加）・講師「高齢者虐待における事例検討について」中土佐町地域包括支援センター（9月27日）
- ・2012年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」「社会福祉援助演習」担当（10月19日・10月23日）
- ・土佐清水市教育センター研修会講師「発達障害をもつ子どもへの支援－子どもや保護者の支援、関係機関の連携－」（1月21日）
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会大会・講師「仕事に行き詰まったら事例研究をしてみませんか」（3月23日）
- ・高知県精神保健福祉士協会新人研修・講師「事例検討研修会」（8月4日・10月27日）

[地域活性化計画策定業務]

- ・津野町地域活性化計画策定業務「廃校後の新たな地域活性化計画の策定」講師（8月27日～3月31日・計5回）  
※西内ゼミの3・4回生ゼミ生7名も継続的に計画策定ワークショップに参加し、意見をまとめた。

## ○総合評価と課題

教育活動では、IPW（inter-professional work）について、看護学部宮武陽子教授、山中福子講師、健康栄養学部廣内智子講師とともに「IP概論」の授業を実施した。学部の専門科目の基盤となるIPWの概念や意義について扱った。今後、授業を実施し、継続的な評価・修正を行う必要がある。また、「事例研究法」、「チームアプローチ」、「ケアプラン策定法」では、学生の問題意識を確認しながら、卒業後をみすえた専門的な視点やスキルについて扱うことにした。これについても、今後、授業を実施し、継続的な評価・修正を行いたい。

研究活動においては、科学研究費補助金・若手研究Bによる研究が最終年であった。この成果を2013年度にまとめたいと考えている。また、2012年度は、高知県内における医療福祉、高齢者福祉、児童福祉へのソーシャルワークについて、地域住民の方々や、行政関係者、ソーシャルワーカーの方々と、現状と課題について協議することができた。

2013年度は、2012年度の研究活動をふまえて、これまで参加している研究会活動である①コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発、②チームアセスメント支援ツールの検証作業に継続的に取り組む予定である。

最後に委員会活動では、共通教育専門委員として、現状の問題点を整理することができた。2013年度に向けて、共通教養科目と社会福祉学部専門科目とのつながりを意識したカリキュラムの検討に尽力したいと考えている。

# 上白木 悦子

Etsuko KAMISHIRAKI

## ○ 研究活動

### 1. 原著(査読あり)

- 1) E. Kamishiraki, S. Maeda, L. J. Starkey, N. Ikeda. (EK, SM made an equal contribution.)

Attitudes toward Clinical Autopsy in Unexpected Patient Deaths in Japan; A Nation-wide Survey of the General Public and Physicians. *Journal of Medical Ethics* 38(12): 735-741, 2012.

- 2) S. Maeda, E. Kamishiraki, L. J. Starkey.

Patient safety education at Japanese medical schools: results of a nationwide survey. *BMC Research Notes* 2012, 5:226 doi:10.1186/1756-0500-5-226

### 2. 著書

- 1) 上白木悦子.

第1章 医療事故とその対応 第1節「医療事故に関する用語の定義」(pp. 2-5) および第2節「医療事故の状況、発生要因」(pp. 5-9). In: 池田・加藤編. シリーズ生命倫理学 第18巻 医療事故と医療人権侵害. 丸善出版, 2012.

### 3. 論説

- 1) 上白木悦子, 前田正一.

患者の権利擁護と患者サポート体制 - 「患者サポート体制充実加算」と同体制における看護師・社会福祉士等の新たな役割 -. *看護管理* 23(2): 107-111, 医学書院, 2013.

### 4. 学会発表(査読あり)

- 1) E. Kamishiraki, S. Maeda, L. J. Starkey.

Survey of health clinic medical directors regarding futile treatments in home terminal care. ISQua's 29<sup>th</sup> International Conference (Geneva, Switzerland) 2012.

- 2) S. Maeda, E. Kamishiraki, L. J. Starkey.

Sorting out medical error leading to patient death: Japanese hospital and clinic administrators would recommend autopsy more than regular physicians. ISQua's 29<sup>th</sup> International Conference (Geneva, Switzerland) 2012.



## 教育研究活動報告書（上白木 悦子）

### 5. 競争的資金等の獲得状況

- 1) 平成 23-24 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（若手研究（B））「判断能力を欠く在宅患者の終末期医療：関係者の治療方針についての意識の分析」における研究代表者 【交付決定額】総額 4,290,000 円
- 2) 日本医師会総合政策研究機構「日本医師会会員を対象とした DNAR 指示についての認識と指示後の治療内容に関する調査研究」（主任研究者：前田正一・慶應義塾大学大学院准教授）における共同研究者【交付決定額】総額 2,500,000 円

### ○教育活動

#### 1. 学部

- ・医療福祉論
- ・ケアマネジメント論
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・社会福祉現場実習Ⅱ
- ・社会福祉現場実習Ⅲ
- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導
- ・福祉研究演習Ⅰ
- ・福祉研究演習Ⅱ
- ・福祉研究演習Ⅲ

### ○委員会活動

#### 1. 全学

- 1) 入試実施委員
- 2) 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員

#### 2. 学部

- 1) 実習委員
- 2) 学生委員（第 13 期生（平成 22 度入学）学年担当）

## ○総合評価と今後の課題

### 1. 研究活動

主として、判断能力を欠く終末期患者への医療のあり方について、医療方針の決定の問題や、方針決定時における医療ソーシャルワーカーの役割等について研究した。本研究は、調査研究を行った上で、理論研究を進めるものであるが、このうち、調査研究については、平成 23-24 年度科学研究費助成事業による助成を得て行った。なお、調査成果は、リーフレットとしてまとめ、各都道府県 保健福祉部へ配布した。現在、国際学会（The International Society for Quality in Health Care 30th International Conference (Edinburgh) 2013）・欧文学術誌において公表する準備を進めている。

また、高知医療センターとの包括連携事業において、高知医療センターのソーシャルワーカーの方がたと共同研究を進めた。現在、学会報告（国内）を行うべく、準備を進めている。

### 2. 教育活動

1) 講義・演習においては、前年度に引き続き、クライアント（または患者）の尊厳や自己決定をめぐる諸問題について、問題の本質の理解と、それに基づく考察が学生自身で行えるようになることを目的として授業を行った。今年度は、前述のこまでの教育に加えて、患者の自己決定とそこに関わる医療ソーシャルワーカーの役割を、学生が比較・検討しやすいように、授業展開を行った。

2) 福祉研究演習においては、6名の学部生（4回生1名および3回生5名）の卒業論文作成の指導につき、特に、研究方法や研究倫理の問題に重点を置いて指導を行った。ゼミ生全員が、こちらからの膨大な課題提供に応じ、毎回、その課題を達成・提出した。

3) 第13期生の学年担当として、三好弥生先生と共に、学生の個別面談を複数回、実施し、学生の現状把握に努めた。

### 3. 委員会活動

活動内容の詳細は、委員会活動のページに記述している。

以 上

# 西梅 幸治

Koji NISHIUME

## ○研究活動

### （1）研究会参加

- 1）エコシステム研究会（関西福祉科学大学大学院 太田義弘教授主催）への参加
- 2）高知県子育て支援研究会への参加

### （2）研究資金の導入

文部科学省科学研究費若手研究（B）「ストレングス視点に基づく知的障害のある人との協働アセスメント方法の構築」（平成 22～24 年度）

### （3）学会参加

- ・日本学校ソーシャルワーク学会
- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・日本社会福祉学会
- ・日本子ども虐待防止学会

発表など（シンポジウム）：

松本務・西梅幸治・木下あゆみ・福田育美・山崎るか・藤澤茜（2013）「虐待の対応と発見—医療および教育現場における『グレーゾーン』のケースを中心に—」日本子ども虐待防止学会第 18 回学術集会高知りょうま大会（高知）

## ○教育活動

### （1）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「相談援助演習」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「福祉研究演習Ⅲ」
- ・「社会福祉ふれあい実習」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「相談援助実習」

### （2）クラブ活動

- ・グローバルクラブ顧問
- ・手話サークル顧問

## ○委員会活動

### （1）全学

- ・生涯学習部会（副部長）
- ・大学案内・オープンキャンパス専門委員会

### （2）学部

- ・広報委員会
- ・実習委員会
- ・就職委員会
- ・国試対策WG

## ○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知市教育研究所 運営委員
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師

## 教育研究活動報告書（西梅 幸治）

- ・日本子ども虐待防止学会高知りょうま大会 実行委員／座長（ポスターセッション）
- ・要約筆記者養成講座 講師（2012年4月14日）
- ・高知県立宿毛高等学校 模擬授業 講師（2012年7月13日）
- ・平成24年度佐川町人権教育研究協議会夏季研究集会・第14回佐川町虐待防止研修会 講師（2012年8月8日）
- ・公益財団法人ユニバーサル財団「日韓こころの交流プログラムー第5回専門職育成・国際交流セミナー」講師（2012年11月8日）

### ○総合評価及び今後の課題

#### （1）研究活動について

研究活動については十分とはいえないが時間を割くことができた。特に科学研究費による研究テーマについては、ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法とコンピュータ支援ツールの開発を継続的に追究できた。また高知県で開催された日本子ども虐待防止学会に実行委員として参加し、スクールソーシャルワーカー活用事業に関連したシンポジウムも企画することができた。

#### （2）教育活動について

##### 講義・演習：

授業では、パワーポイントで作成したレジメを作成・配付し、シラバスに従い学生が理解できるような工夫を重ねた。そしてレジメの他にもDVDなどの視覚教材の活用や演習のための事例を取り入れ、学生の理解度を高めるように努めた。また学生からフィードバック・コメントを得ながら、授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した展開の修得や国試対策も見据えた工夫を重ねていきたい。

##### 実習指導：

実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度は実習巡回時にソーシャルマナーや動機の不十分さに対して指摘を受けた学生が多かった。そのため実習後のスーパービジョン過程でその点からのふり返りをすすめて、専門職としての姿勢が確実に身につくような指導に努めた。

##### 卒論指導：

今年度は、4名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は、個別の添削指導を中心に行ったことで、個々の論文内容の質を高めることができた。

#### （3）委員会活動・社会的活動について

本年度は、広報委員として、学部紹介DVD、学部パンフレット作成、オープンキャンパスなどに他の役割を兼ねながら、力をそそぎ成果を得ることができたと思う。社会的活動に関して、高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザーとしては5年目であり、本学と高知県教育委員会の連携、に関して一定の役割を担うことができたと思う。今年度は特に日本子ども虐待防止学会の本学での開催に、多くの学生ボランティアと先生方にご協力をいただいたことに深謝している。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

# 鳩間 亜紀子

Akiko HATOMA

## ○ 研究活動

### 1 論文

- ・ 鳩間亜紀子「訪問介護におけるエラーの実態と発生の背景」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』62, 43-52, 2013.

### 2 発表

- ・ 藤原路加・鳩間亜紀子「訪問介護員が生活援助を行う際の意識と着眼点；訪問介護員へのインタビュー調査から」『第20回日本介護福祉学会大会発表報告要旨集』（京都女子大学），80，2012.

### 3 その他

- ・ 『平成23年度専門介護福祉士認定に関する研究；専門介護福祉士養成教育課程（カリキュラム）に関する研究報告書』専門介護福祉士認定に関する研究会；専門介護福祉士養成課程（カリキュラム）に関する作業部会，（委員長：黒澤貞夫），日本介護福祉士養成施設協会，2012.

## ○ 教育活動

[共通教育教養科目]

- ・ 社会福祉論

[学部科目]

- ・ 社会福祉入門演習
- ・ 社会福祉基礎演習
- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・ 相談援助演習
- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助実習
- ・ 福祉研究演習Ⅰ
- ・ 福祉研究演習Ⅱ

## ○ 委員会活動

[全学]

- ・ 国際交流委員
- ・ 入試実施委員

[学部]

- ・ 実習委員
- ・ 社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ
- ・ 学生委員（第15期生学年担当）

○ 社会的活動

- ・ 高知県立大学社会福祉学部リカレント講座講師「福祉・介護実践の効果をどのように測定するのか」2012年12月15日
- ・ 社団法人日本社会福祉士養成校協会 平成24年度国家試験対策委員会 執筆委員（模擬試験問題作成）
- ・ 高知学園短期大学看護学科 非常勤講師（「看護と福祉」担当）

○ 総合評価及び今後の課題

全体的に、講義の準備をすることに精一杯だった。学生が主体的に取り組めるよう、講義の構成を検討するだけでなくミニテストの実施やリアクションペーパーへの回答など心がけた。「高齢者に対する支援と介護保険制度」では、学生の理解度にばらつきが見られたため、予習復習の具体的な指示や視覚教材の効果的な活用を課題としたい。

また今年度は1回生の学年担当が大きな仕事だったが、スタディスキルが講義内容の中心となる「社会福祉基礎演習」をきっかけに学生の自主的な学習グループができるなど、主体的な学びを促すことができたと思われる。来年度も引き続き、学生の主体的な活動をサポートしたい。

研究活動については、データの整理に着手することができたが、全体として継続的に時間をとって研究を行うことが困難だった。フィールドワークも途切れてしまっているため、今後は研究活動に一定の時間を確保できるよう努力したい。

# 福間 隆康

Takayasu FUKUMA

## ○研究活動

### （1）論文

1. 福間隆康「サービスの質に与える二重コミットメントの影響に関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2012・8, 1-19 頁, 2012年7月。
2. 福間隆康「職務コミットメントと組織コミットメントによる類型と職務満足およびサービスの質に関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2012・9, 1-19 頁, 2012年7月。
3. 福間隆康「ケアワーカーのコミットメントの対象とサービスの質との関係に関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2012・13, 1-13 頁, 2012年9月。
4. 福間隆康「ヒューマン・サービス組織における職務満足, 組織コミットメント, サービスの質に関する予備的考察」『広島大学マネジメント学会ディスカッションペーパー』2012・14, 1-20 頁, 2012年9月。
5. 福間隆康「ケアワーカーのコミットメントの対象とサービスの質との関連性」『人材育成学会第10回年次大会論文集』221-226 頁, 2012年12月。
6. 福間隆康「サービスの質の規定要因としての職務関与と組織コミットメント—高齢者デイサービスセンターのケアワーカーを対象とした定量的分析」『広島大学マネジメント研究』第13号, 109-124 頁, 2012年12月。
7. 福間隆康「職務コミットメントと組織コミットメントによる類型と職務満足およびサービスの質—介護職と看護職を対象とした定量的分析」『社会福祉学』第53巻第4号, 55-68 頁, 2013年2月。
8. 福間隆康「サービスの質に与える二重コミットメントの影響—介護サービス施設・事業所の介護職員を対象とした定量的分析」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第62号, 53-70 頁, 2013年3月。

### （2）学会報告

1. 福間隆康「サービス・クオリティの向上に多重コミットメントが与える影響に関する研究—ヒューマン・サービス専門職のコミットメントを中心に」日本経営学会関西部会第590回例会（広島経済大学）, 2012年6月。
2. 福間隆康「ヒューマン・サービス組織における職務態度, サービスの質に関する実証分析—介護福祉士の職務満足と組織コミットメントを中心に」第20回日本介護福祉学会大会（京都女子大学）, 2012年9月。
3. 福間隆康「職務コミットメントと組織コミットメントによる類型と職務満足およびサービスの質—介護職と看護職を対象とした定量的分析」日本社会福祉学会第60回大会秋季大会（関西学院大学）, 2012年10月。

## 教育研究活動報告書（福間 隆康）

4. 福間隆康「ケアワーカーのコミットメントの対象とサービスの質との関連性」人材育成学会第10回年次大会（立教大学），2012年12月。

### （3）競争的資金の獲得状況

1. 日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究B）「サービスの質を規定するモデル構築に関する研究」（平成22～24年度）
2. マネジメント研究センタープロジェクト研究助成金「ヒューマン・サービスのクオリティ向上のためのマネジメントに関する研究」（平成24年度）

## ○教育活動

1. 福祉対象入門
2. 福祉援助入門
3. 福祉サービスの組織と経営
4. 福祉研究演習Ⅰ
5. 福祉研究演習Ⅱ
6. 相談援助演習
7. 相談援助実習指導
8. 相談援助実習
9. 社会福祉ふれあい実習

## ○委員会活動

### （1）全学

1. 健康長寿センター運営委員
2. 入試監査委員
3. 総合情報センター運営委員

### （2）学部

1. 社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員
2. 学生委員（第14期生学年担当）
3. 実習委員

## ○社会的活動

1. 高知県社会福祉士会理事（2012年4月～）
2. 愛媛県中予地区老人福祉施設協議会リーダーシップ研修会講師「リーダーシップ・メンバーシップについて、どうやる気を向上させるか、モチベーションの維持について」（にぎたつ会館），2012年5月。

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 研究活動

科学研究費補助金（若手研究B）の成果の一部を学会で報告するとともに、学会誌に掲載することができた。次年度は、科学研究費助成事業（基盤C）の研究分担者として着実に研究を遂行し、研究成果の形として、学会報告を行う予定である。

### 2. 教育活動

各授業では、能動的な学習や共同学習に重点を置き、学生を知的な発見に取り組ませるよう努めた。今後は、学生による授業評価に基づき授業を改善したり、より多くの視聴覚教材を取り入れたりすることにより、魅力ある授業を実施していきたい。

### 3. 社会的活動

高知県社会福祉士会の国家試験対策において、全国統一模擬試験および国家試験対策勉強会を実施し、受験に向けた意欲の向上や受験勉強の継続の一助となった。今後は、研修等の講師で時間の都合が許す限り要望に対応していきたい。



# 三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

## ○研究活動

### 1. 論文

三好弥生・石川由美 (2013) 「介護福祉士養成における看取りに関する教育の現状と課題」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』62, 101-108.

### 2. 著書

三好弥生「第3章 第3節記録の意義と重要性」『実務者研修テキスト3 介護におけるコミュニケーション』日本医療企画 169-179, 2012.

### 3. 発表

1) 石川由美・三好弥生「介護福祉士における『終末期の介護』に関する教育の動向と位置づけ」日本社会福祉学会 中国・四国地域ブロック第44回大会（岡山），2012年7月.

2) 三好弥生・石川由美「介護福祉士における『看取り』に関する教育内容の分析報告」第19回日本介護福祉教育学会（神戸），2012年9月.

## ○教育活動

### 1. 学部担当科目

- ・「コミュニケーション技術」
- ・「介護技術」 オムニバス
- ・「介護総合演習Ⅱ」
- ・「高齢者に対する支援と介護保険制度」 オムニバス
- ・「生活支援技術Ⅱ」
- ・「福祉研究演習Ⅰ」
- ・「生活支援技術Ⅴ」
- ・「福祉研究演習Ⅱ」
- ・「障害の理解Ⅰ」
- ・「介護実習Ⅰ」
- ・「介護実習Ⅱ－①」
- ・「介護実習Ⅱ－②」

## ○委員会活動

### 1. 全学

- ・学生委員

### 2. 学部

- ・3回生学年担当
- ・教務委員
- ・実習委員

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・介護福祉士試験委員（2010年～）

### 2. 公開講座

- ・高知県立大学 高校生のための公開講座「聞き上手はコミュニケーション上手」講師，2012年8月．

### 3. 外部講師

- ・NPO法人宅老所はな ホームヘルパー2級講座「障害・疾病の理解、認知症の理解」講師，2012年10月．

### 3. その他

- ・こうち介護の日 2012（高知中央公園）「プチリラクゼーション」出店，2012年11月．

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 研究活動について

平成24年度は、「介護福祉士養成における看取りに関する教育の現状と課題」を明らかにすべく共同で研究に着手した。その成果は、介護福祉教育学会等で発表し、紀要にも投稿することができた。また、平成23年度から始めた「高齢者のエンドオブライフ・ケア」に関する研究についても、少しずつではあるが進展し、平成24年12月より特別養護老人ホームの調査を開始した。平成25年度はさらに業務が多忙になることが予測されるが、時間を捻出し継続的に取り組んでいきたい。

### 2. 教育活動について

介護コース設置3年目となった。1期生も3回生になり、さらに介護関係の授業が増え、加えて学外における介護実習も年間3回となった。実習の最終段階である介護実習Ⅱ-②を終え、その報告会では、実習先の指導者ら関係者をお招きし、本学で初めてとなる介護実習の集大成を披露することができた。

しかし、一方で授業や実習の準備、評価等に多くの時間が割かれ、事後一つひとつを振り返ることがほとんどできなかった。今後は、授業、実習内容の充実に向けて努めていきたい。

### 3. 社会的活動

昨年度に引き続き、介護福祉士国家試験の委員として、実技試験にかかわる業務を担った。

# 石川 由美

Yumi ISHIKAWA

## ○研究活動

### 1. 論説

三好弥生・石川由美 (2013) 「介護福祉士養成における看取りに関する教育の現状と課題—4年生大学のシラバス分析—」『高知県立大学紀要』62, 101-108.

### 2. 学会発表

1) 石川由美・三好弥生：介護福祉士における「終末期の介護」に関する教育の動向と位置づけ, 日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第44回大会(岡山), 2012年7月.

2) 三好弥生・石川由美：「介護福祉士における『看取り』に関する教育内容の分析報告」第19回介護福祉教育学会(神戸), 2012年9月.

## ○教育活動

### 1. 学部担当科目

- ・認知症の理解Ⅰ
- ・認知症の理解Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護技術

## ○委員会活動

- ・学部教務委員会
- ・学部入試委員会
- ・学部実習委員会
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会

## ○社会的活動

### 1. 公開講座

・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「介護とは何か—介護福祉入門—」講師, 2012年12月.

### 2. その他

・こうち介護の日2012(高知中央公園)「プチリラクゼーション体験」, 2012年11月.

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

着任1年目ということで、新規で担当する科目がほとんどで授業準備に多くの時間を費やした。パワーポイントや視聴覚教材、事例、グループ演習など、学生が興味関心を持って授業に参加できるような工夫をした。8月と3月には介護教員講習会にも参加させていただき介護教員としての知識を身につけるとともに、介護福祉士養成の責任の重さを実感した。今後の授業では、これまで医療福祉現場での実践から得た経験と、講習会での学びを結び付け、学生にとって有意義な授業展開ができるように努力したい。

介護実習については、主担当の先生に同行し、学生への指導方法や実習施設との関係づくりを見学させていただいた。次年度においては、多様な生活課題を抱える個々の利用者の「その人らしい生活」を支えることの大切さを学生に伝えていきたい。

### 2. 研究活動について

今年度前期は主体的な研究活動ではなく、主担当の先生と共同研究をさせていただいた。後期には、自身の研究テーマである「在宅要援護者に対する災害対応についての介護支援専門員の認識」の調査を行った。今後は調査対象範囲を、介護支援専門員だけでなく、高齢者福祉施設に勤務する福祉専門職に広げ、災害に向けた取り組みについて調査を進めていきたい。

### 3. 社会活動について

リカレント教育講座では、参加者のほとんどが介護現場に勤務する方々であり、現在のニーズや関心のある事柄を知ることができた。今後は、介護現場と教育の場をつなげられる活動ができるよう自己研鑽に努めたいと考えている。

## ○研究活動

(1) 論文・報告書・著書・発表  
なし

(2) 学内外の競争的資金の獲得状況

- ・平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））『精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の開発と普及に関する研究』（課題番号：H24-精神-一般-006）、研究協力者  
研究代表者：石川到覚  
研究分担者：住友雄資

## ○教育活動

[講義]

1. 精神保健福祉援助技術各論
2. 精神科リハビリテーション学
3. 精神保健福祉援助実習
4. 精神保健福祉援助演習（開講時に育児休業中であったため、担当せず）
5. 精神保健福祉ふれあい実習（ // ）

## ○委員会活動

[学部]

1. 実習委員
2. 教務委員
3. 個人情報保護・研究倫理審査委員
4. 国試対策支援ワーキンググループ

## ○社会的活動

(1) 委員等

- ・日本精神保健福祉学会 事務局員

(2) 公開講座・学外講師

なし

## ○総合評価と今後の課題

教育活動については、7月上旬から産前休暇に入る予定だったため、後期開講の担当科目の一部を前倒して実施した。講義科目は昨年度に引き続き、チーム基盤学習を取り入れて学生が主体的に学べるような授業を展開した。実習科目において、実習の動機と課題・実習計画書の個別指導をおこなった際に、担当する講義科目の課題も把握できた。今後は、授業アンケートの結果等も踏まえ、授業の展開方法や教育内容を随時見直していく。

## 教育研究活動報告書（稲垣 佳代）

研究活動は、厚生労働科学研究補助金を受けた精神保健福祉士の実践評価に係る調査研究の研究協力者として名を連ねているものの、成果が挙げられていない。職場復帰後は、教育活動・研究活動ともに精力的に取り組んでいきたい。

# 加藤 由衣

Yui KATO

## ○研究活動

### （1）学術論文

- ・加藤由衣「ソーシャルワークにおける現任教育方法の構築 - 現任教育デザインの発想と検証から -」京都府立大学大学院課程博士学位論文 2013年3月

### （2）学会発表

- ・加藤由衣「ソーシャルワーク教育における新しい方法に関する研究（7）- インタビューからの現任教育デザインの考察 -」日本ソーシャルワーク学会第29回大会（神奈川）2012年6月

### （3）学会参加

- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・日本学校ソーシャルワーク学会

### （4）研究会参加

- ・エコシステム研究会への参加

## ○教育活動

### （1）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「社会調査の基礎」
- ・「相談援助演習」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「相談援助実習」
- ・「社会福祉ふれあい実習」

## ○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部教務委員会
- ・国試対策支援ワーキンググループ

## ○社会的活動

### （1）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・学校法人すみれ学園高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）

## ○総合評価及び今後の課題

### （１）研究活動について

本年度は、これまで行ってきたソーシャルワーク現任教育方法に関する研究成果を、博士学位論文にまとめることができた。具体的には、ソーシャルワークの特性をふまえて現任教育方法の基盤を整理するとともに、現任教育を実施している人へのインタビュー調査とその分析から教育デザインの要素をまとめた。2013年度は、教育活動との連動を意識しながら、継続して教育デザインを含めた現任教育方法に関する研究に取り組み、論文発表などで成果をまとめていきたい。

### （２）教育活動について

講義では、昨年度の成果や課題をふまえ、グループ学習やロールプレイなどを取り入れつつ学生が主体的に参加できるように授業を計画した。また、事例を用いた説明やパワーポイント・視聴覚教材の使用など、学生の理解を深め授業への動機づけを高めるツールや教材を工夫した。そして、授業開始時にリアクションペーパーの質問に対する説明を加えるなど、学生からのフィードバックを意識した授業を心がけた。今後も、学生の意見や質問をもとに授業の改善を図りつつ、学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。特に、学生数が増加するなかで、きめ細やかな学生の指導やサポートが行えるよう、他の教員と連携し全体の状況把握に努めた。2013年度は4回生の配属実習も始まるため、新たな状況に対応した実習教育を検討していきたい。

4回生の国家試験対策の支援では、個別面談の実施や学習環境づくりなどの学習支援を行ってきた。特に、学生が計画的に学習を進めることができるように、個別面談をとおして学生とともに学習計画をたて、学習方法やテキストなどの助言を行った。しかし、受験に向けた取り組みや学生の受験への意識づけが全体的に遅かったため、2013年度はそれらの改善に取り組みつつ、社会福祉士ならびに精神保健福祉士国家試験の合格率の維持・向上に貢献していきたい。



# 鈴木 裕介

Yusuke SUZUKI

## ○研究活動

- ・鈴木裕介（2013）「医療ソーシャルワークにおける心理的援助の位置づけと課題」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』62, 87-99.

## ○教育活動

- ・医療ソーシャルワーク論
- ・ケアマネジメント演習
- ・相談援助演習
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・相談援助実習指導
- ・相談援助実習

## ○委員会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員 学部
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・情報処理委員
- ・実習委員
- ・総務委員
- ・国試対策支援ワーキンググループ

## ○社会活動

- ・社会福祉士会による社会福祉士国家試験受験対策勉強会（日程：平成24年12月2日，会場：高知県立大学）
- ・高知県立大学 高校生のための公開講座「医療機関におけるソーシャルワーカーの役割」日程：平成24年8月4日

## ○総合評価と今後の課題

### （1）研究活動について

昨年度と比較すると本年度は、研究時間の確保ができたが、全体の業務量に占める割合は非常に少ない。先行研究の整理に留まり、調査を行うことができなかったため、来年度は調査を行っていききたい。

### （2）教育活動について

講義は、ソーシャルワーク理論と実践現場の循環を意識して行った。具体的には、理論についての講義の直後にロールプレイを行い、具体的実践過程を理解できるよう努め

## 教育研究活動報告書（鈴木 裕介）

た。ロールプレイ後はグループディスカッションを行い、ロールプレイ内容の振り返りと情報共有を行った。また、毎回リアクションペーパーを記載してもらい、授業に対する理解・質問等の確認を行った。学生の理解度を確認しながら、講義の修正や重要点の再教育を行うことができた。

実習教育は、専門職実習に行くことに対する心構えについて重点的に指導した。面接技術や多職種連携方法等の具体的実践に興味をわくことは当然であるが、その前提には価値と倫理が存在し、これを根拠としながら実践していくことが大切であることを伝えた。学生にとっては実習先だが、利用者にとっては生活場面であり、その生活場面に入らせていただくことがどういうことなのかを、主体的に考えるように指導した。

### （3）委員会活動・社会活動について

高知医療センターの医療ソーシャルワーカーと共同研究を行っており、来年度に日本医療マネジメント学会へ発表予定である。テーマは、「ソーシャルワーカーに対する院内職員の認識（第一報）—急性期病院における転退院」である。来年度も継続して本研究に取り組む予定である。

# 田 中 眞 希

Maki TANAKA

## ○研究活動

### 1. 論文

宮上多加子・田中眞希（2013）「介護福祉士養成教育における社会人学生の学びのプロセス—離職者訓練生と介護雇用プログラム生の学年比較による変化—」『中国・四国社会福祉研究』第2号，13-29.

### 2. 報告

なし

### 3. 学会発表

宮上多加子・田中眞希：介護福祉士養成教育における社会人学生の学びの構造—離職者訓練生の学年による変化—，日本社会福祉学会中国四国地域ブロック 2012 年度第44回大会（岡山），2012年7月

宮上多加子・田中眞希：介護福祉士養成教育における社会人学生の学びの構造—離職者を対象とした介護雇用プログラム生の学年変化—，第19回日本介護福祉教育学会（兵庫），2012年9月.

田中眞希・宮上多加子：離職者を対象とした介護人材養成教育の現状と課題，第20回日本介護福祉学会大会（京都），2012年9月.

## ○教育活動

### 1. 学部担当科目

- |          |              |
|----------|--------------|
| ・介護の基本Ⅰ  | ・介護の基本Ⅱ      |
| ・介護の基本Ⅲ  | ・生活支援技術Ⅰ     |
| ・生活支援技術Ⅱ | ・生活支援技術Ⅲ     |
| ・介護総合演習Ⅰ | ・介護総合演習Ⅱ     |
| ・介護実習Ⅰ   | ・介護実習Ⅱ       |
| ・障害の理解Ⅱ  | ・介護技術（オムニバス） |

## ○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部広報委員会

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・第 25 回介護福祉士国家試験実地試験委員

### 2. その他

- ・こうち介護の日 2012（高知中央公園）「プチリラクゼーション」11 月.

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

平成 24 年度は、介護福祉コース 1 期生の 450 時間の介護実習が終了した。実習前指導、巡回指導、実習後指導ともに、初めてのことで試行錯誤しながらであった。全ての実習が終了したため、実習先の施設長、実習指導者の方々に参加していただき、介護福祉実習報告会を行った。介護福祉コース 1 期生は、それぞれ満足した表情をしていた。また、参加者からは、高い評価を得ることができた。

担当科目について、学生が授業に参加しやすい環境をつくることに気をつけて行った。具体的には、練習問題を活用し授業内容の復習を行うことや、新聞記事などを活用しグループワークやディベートなどを行った。また、リアクションペーパーの内容を活かした授業を行うように心がけた。演習科目では、個別に多様である生活支援技術について、困惑しないように伝えることや、学生の質問に具体的に答えるように心がけた。

介護実習、授業ともに、学生の意見などを聴取し、より分かりやすい授業や実習指導を展開したいと考えている。

### 2. 研究活動について

今年度は昨年に引き続き、積極的な研究活動が行えなかった。次年度は時間を有効に活用し、計画的に進めていきたいと考えている。

### 3. 社会活動について

地域での活動は介護福祉士養成にかかわることで、少しではあるが参加できたと思う。介護福祉実習等での関係を大切に、少しでも社会に貢献できる活動を行うように心がけたいと考えている。

# 二本柳 覚

Akira NIHONYANAGI

## ○ 研究活動

### 1. 論文

- 1) 二本柳覚 (2012) 「大学におけるケアマネジメント技術教育 ～外因要素が知的理解に及ぼす影響について～」『日本福祉大学社会福祉論集』127, pp101-112.
- 2) 二本柳覚 (2013) 「社会福祉専門職教育におけるメンター活動 ～実習指導支援演習履修者へのアンケートから～」『日本社会福祉教育学会誌』8, pp45-55.
- 3) 二本柳覚 (2013) 「広報誌から見た愛知県におけるこころの健康に対する取り組みの実体」『福祉研究』（日本福祉大学社会福祉学会）105, pp49-57.

### 2. 学会発表

- 1) 二本柳覚 (2012) 「大学におけるケアマネジメント技術教育 ～外因要素がもたらす影響について～」日本ケアマネジメント学会第11回研究大会, 2012. 7.
- 2) 二本柳覚・鈴木由美子・寺澤法弘ほか (2012) 「社会福祉専門職教育におけるメンター活動～実習指導支援演習履修者へのアンケートから～」日本社会福祉学会第60回秋季大会, 2012. 11.

### 3. その他

- 1) 二本柳覚 (2012) 「第2章 精神保健の課題と支援」「第5章 精神保健福祉の理論と相談援助の展開」「第6章 精神保健福祉に関する制度とサービス」精神保健福祉士試験対策研究会 著『福祉教科書 精神保健福祉士 完全合格テキスト 専門科目』, 翔泳社.
- 2) 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」(研究代表者: 山本政弘) 企画・発行 (2012) 『訪問看護・介護職員向け HIV感染症対応マニュアル』(構成・デザイン担当)
- 3) 田中千枝子・鈴木由美子・二本柳覚 (2013) 『スモン患者さんのためのチカラになる情報～知って役に立つミニ知識～第2版』平成23年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「スモンに関する調査研究」研究代表者: 小長谷正明(国立病院機構鈴鹿病院) 研究分担者: 田中千枝子(日本福祉大学)

## ○ 教育活動

- ・ 障害者に対する支援と障害者自立支援制度
- ・ 精神保健福祉援助実習
- ・ 精神保健福祉援助演習
- ・ 精神保健福祉ふれあい実習

## ○ 委員会活動

- ・ 入試実施委員
- ・ 情報処理委員
- ・ 実習委員
- ・ 国試対策ワーキンググループ

## ○社会的活動

- ・ 知多市保健センター「精神保健相談」相談員
- ・ 社団法人尾北医師会「介護支援専門員事例検討会」アドバイザー
- ・ 2012年度高知県児童福祉司認定講習会講師「障害者福祉論」担当
- ・ 2012年度日本福祉大学第8回ケアマネジメント研究セミナー「支援困難ケースのアウトリーチ」分科会C「ケアマネジメント技術教育のあり方を考える」講師
- ・ 日本精神保健福祉学会事務局員
- ・ 日本学校ソーシャルワーク学会地区世話人
- ・ 外部非常勤：
  - ・ 日本福祉大学：「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習入門」「社会福祉援助技術論Ⅱ」「社会福祉援助技術論Ⅲ」
  - ・ 同朋大学：「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」「精神保健福祉援助技術各論Ⅱ」

## ○総合評価及び今後の課題

### （1）研究活動について

本年度の研究活動結果は論文が3本、報告が2本であった。本年度の成果については前任校の内容を踏まえたものが殆どとなっている。まだ前任校で行った調査等で整理が出来ていないものが多々あるため、それらの整理を進めていくとともに、高知県をフィールドとした調査についても今後進めていきたい。

### （2）教育活動について

本年度担当した「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、教科書のみでなく、視聴覚教材も含めて興味関心を持ちやすくなるような構成になるよう意識して運営を行った。また講義の最後に、よくあるリアクションペーパーではなく、講義に対する「質問」を書かせる事によって、講義内容について意識的に取り組めるよう試みた。結果として、すべての学生ではないが、継続的に実施することで質問の質が向上した学生も見受けられた。

実習指導に関しては、10月赴任であるため4年制に対する指導は、精神保健福祉援助実習終了後からの関わりになった。出来る限り各学生の学び得たものを整理しながら指導を行ったが、実習前指導、実習中指導の内容を十分に踏まえた実習事後指導が出来たとは言い難いものがあった。

### （3）その他

10月より赴任したため、まずは新たな環境に慣れることに重点を置いた。前任校との仕組みの違いに戸惑うことも多くあったが、ある程度の業務把握は出来たと考える。ただまだ1年を通じた業務が行えていないため、来年度も引き続き業務理解を進めていくとともに、高知県立大学に所属するものとして、より一層高知県についての理解を深めて、地域に還元できる教育・研究を実施していきたい。

○ 研究活動

1. 論文

橋本力「介護支援専門員が行うアセスメントにおけるインフォーマル・サポートの情報把握に関する研究」大阪市立大学大学院博士論文，2013年3月

2. 競争的資金の獲得状況

平成24年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 若手研究B）「介護支援専門員によるインフォーマル・サポート活用の支援プロセスに関する研究」、研究代表者橋本力（平成24～25年度）

○ 教育活動

- ・ 社会福祉ふれあい実習
- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助演習
- ・ 社会福祉入門演習
- ・ 社会福祉基礎演習
- ・ 虐待防止論
- ・ 社会調査の基礎
- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度

○ 委員会活動

- ・ 広報委員
- ・ 健康長寿委員センター委員
- ・ 学生委員（15期生学年担当）
- ・ 実習委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ

○ 社会的活動

- ・ 社会福祉士会による社会福祉士国家試験受験対策勉強会（2013年1月12日、会場：高知県立大学）

## ○総合評価及び今後の課題

### 研究活動

今年度は、自身の研究テーマである介護支援専門員によるアセスメントにおけるインフォーマル・サポートの情報把握について博士論文を執筆した。また、科学研究費助成事業（若手研究 B）に基づき、介護支援専門員を対象に、インフォーマル・サポート活用における支援プロセスについて調査を実施した。今後は、科学研究費助成事業に基づく研究を継続的に進めていく予定である。

### 教育活動

学生にとって、講義内容が理解しやすく、また学生自らが普段の生活と結びつけて考えることができる講義となるよう工夫を行った。また 15 期生の学年担当として 1 回生の学生生活をサポートしてきた。次年度においては、今年度の課題点を精査し、学生にとってより良い講義となるよう改善していきたいと考えている。また学年担当業務においては、学生を様々な側面からサポートできるよう今後も努めていきたい。

### 社会的活動

今年度における社会的活動は、社会福祉士会による社会福祉士受験対策勉強会の準備および当日対応等のみであった。次年度においては、自身の専門および研究成果等を地域へと還元できるよう、自己研鑽に努めていきたいと考えている。



# Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動  
(委員会活動報告書)



## 2012年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

委員会名	構成メンバー			
教務委員会	<u>杉原 俊二</u>	宮上 多加子	長澤 紀美子	西内 章
	鈴木 孝典	三好 弥生	加藤 由衣	石川 由美
	稲垣 佳代			
入試委員会	前山 智 <small>(全学入試委員 学部入試実施委員)</small>	<u>上白木 悦子</u> <small>(入試実施委員長)</small>	鈴木 孝典 <small>(入試実施委員/センター試験部会委員)</small>	鳩間 亜紀子 <small>(入試実施委員)</small>
	石川 由美	二本柳 覚		
学生委員会	三好 弥生	黒田 しづえ	後藤 由美子	上白木 悦子
	福間 隆康	鳩間 亜紀子	橋本 力	
実習委員会※	<u>小坂田 稔</u>	丸岡 利則 <small>(社会福祉士コース 主担当)</small>	黒田 しづえ <small>(介護福祉士コース 主担当)</small>	鈴木 孝典 <small>(精神保健福祉士 コース主担当)</small>
就職委員会	後藤 由美子	西内 章	西梅 幸治	
広報委員会	西梅 幸治	橋本 力	田中 眞希	
健康長寿センター	小坂田 稔	福間 隆康	二本柳 覚	橋本 力
高知医療センター・ 県立大学包括的連携協議会	前山 智	上白木 悦子	鈴木 裕介	
総務・予算委員会	<u>宮上 多加子</u>	長澤 紀美子	田中 眞希	鈴木 裕介
	鈴木 孝典	鈴木 裕介	二本柳 覚	
		情報処理部会委員		

■ : 全学委員

一重下線 : 学部委員長

※ 実習委員会委員は上記委員長+各コース主担当に加え、授業担当者全員

# 教務委員会

杉原 俊二

## （１）教務委員会の開催

学部教務委員会を、平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月までに、合計 16 回開催した。

## （２）授業の調整

社会福祉士養成課程は 4 回生までが新カリキュラムとなったが、介護福祉士養成課程を含むカリキュラム（1～3 回生）、精神保健福祉養成課程の新カリキュラム（1 回生）と、3 つのカリキュラムが並行していた。また、「相談援助実習」が昨年度から 10 月にもおこなわれるようになり、12 月の集中講義期間に補講期間を設けた。

## （３）卒業研究論文に関する発表会の開催

4 回生履修科目の「福祉研究演習Ⅲ」における卒業研究論文作成のため、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成した。また、例年通り 3 回の発表会を開催した。卒論構想発表会は学生が増えたため大講義室でおこなった。そのため、金曜日（5 月 18 日・25 日）に実施した。卒論中間発表会は 10 月 31 日、卒業研究論文発表会（最終発表会）は 2 月 15 日に実施した。発表形式は昨年度と同様に、構想発表会は口頭発表（スライドなし）、中間発表会はポスター発表、最終発表会は口頭発表（スライド使用）とした。

## （４）次年度のゼミ配属についての調整

12 月に『平成 25 年度福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ選択資料』を作成し、2 回生へ配布と説明をしたうえで、1 月にゼミ希望をまとめた。退職する教員もあり、来年度のゼミ担当教員が 14 名となり、1 ゼミあたりの上限を 6 名として調整した。第一希望での選考をおこない、後は空いているゼミへ再度応募をする形になった。また、退職する教員の担当していた学生（10 名）を他のゼミに移した。

## （５）規程等の改正

「精神保健福祉士」が新カリキュラムへ移行（「介護福祉士」も一部改正）がおこなわれ、学則の変更など手続きが行われた。また、非常勤講師の採用・委嘱等の規程や、成績の保護者への情報提供など複数の規程が変更となり、それについて対応した。

## （６）今後の課題

今後、3・4 回生の福祉研究演習の運営方法や研究の指導について、70 名定員体制に即したものにする必要があった。また、1・2 回生のカレッジスキルについての指導も検討された。委員会内で「学部学生研究指導体制ワーキンググループ」を立ち上げ、8 回の会議をもった。それらの結果を集約してカリキュラムの改正をおこなったが、実施することができなかった。様々な点で今後の課題となった。

# 入 試 委 員 会

上 白 木 悦 子

## ○平成 24 年度委員会の体制

平成 24 年度の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を前山学部長、全学入試実施委員を上白木（委員長）・鈴木孝典・鳩間、学部入試委員を石川・二本柳、センター試験部会委員を鈴木孝典が担当した。

## ○平成 25 年度入試の概況

### 1. 結果

区分	募集人員(人) A	男女別	志願者数(人)B		受験者数(人)C		合格者数(人)D		入学手続者数(人)		志願倍率(%)	合格倍率(%)	
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	B/A	C/D	
推薦 (11/17)	県内	男	5	5	5	5	3	3	3	3	0.3	1.7	
		女	28	28	28	28	17	17	17	17	1.4	1.6	
		計	33	33	33	33	20	20	20	20	1.7	1.7	
	全国	男	6	0	6	0	0	0	0	0	0.6		
		女	30	1	30	1	10	0	10	0	3.0	3.0	
	計	36	1	36	1	10	0	10	0	3.6	3.6		
計	30	男	11	5	11	5	3	3	3	3	0.4	3.7	
		女	58	29	58	29	27	17	27	17	1.9	2.1	
		計	69	34	69	34	30	20	30	20	2.3	2.3	
一般	前期 (2/25-26)	男	53	10	50	10	10	1	8	1	1.5	5.0	
		女	135	35	121	32	33	9	28	8	3.9	3.7	
		計	188	45	171	42	43	10	36	9	5.4	4.0	
	後期 (3/12)	男	52	8	30	5	4	0	4	0	10.4	7.5	
		女	107	34	48	14	5	2	3	1	21.4	9.6	
		計	159	42	78	19	9	2	7	1	31.8	8.7	
	計	40	男	105	18	80	15	14	1	12	1	2.6	5.7
			女	242	69	169	46	38	11	31	9	6.1	4.4
			計	347	87	249	61	52	12	43	10	8.7	4.8
私費外国人留学生 (2/26)	若干人	男	0	/	0	/	0	/	0	/	/	/	
		女	0	/	0	/	0	/	0	/	/	/	
		計	0	/	0	/	0	/	0	/	/	/	
合計	70	男	116	23	91	20	17	4	15	4	1.7	5.4	
		女	300	98	227	75	65	28	58	26	4.3	3.5	
		計	416	121	318	95	82	32	73	30	5.9	3.9	

前期試験の課題図書：外山滋比古(1986)「思考の整理学」筑摩書房

入学手続者の県内率：41.1%

## 委員会活動年度報告書（入試委員会）

### ○平成 25 年度入試の特徴

1. 前年度（平成 24 年度）と比し、志願倍率・合格倍率・手続者の県内率は減少した。  
なお、志願倍率・合格倍率については、一昨年度（平成 23 年度）等、例年の実績と比すと、増加傾向にあるとみることができる（下表）。

	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度
志願倍率 (%)	5.9	6.3	4.8
合格倍率 (%)	3.9	4.0	3.0
手続者の県内率 (%)	41.1	45.8	43.4

2. 前年度に引き続き、推薦入試における全国枠につき、高知県内からの受験実績があった（推薦入試の全国枠は、平成 23 年度から実施を始めた）。

### ○志望動機調査の実施

調査は、15 期生（1 回生）を対象として実施した。結果としては、「将来は社会福祉関係の仕事に就きたいと思った」、「学費が私大より安い」、「センター試験の結果を見て」、「社会福祉関連の資格を取得したいから」が多く挙げられた。傾向としては、例年通りである。

### ○課題

高知県内の受験者数・入学手続者数の実績につき、広報等を通じ、向上を目指す。

以 上

# 学 生 委 員 会

三 好 弥 生

## ○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

## ○ 活 動 内 容

### 1. 相談活動

本学部生全体の健康や履修状況の把握については、学年ごと、担当教員が中心行い、委員会で情報共有を行った。心身の健康に関する問題や進路変更等について、基本的には各学年担当教員とゼミ担当教員が窓口となり、個別に相談に応じるとともに、随時必要があれば健康管理センターや学生課と連携して対応にあたった。

また、健康管理センターが定期的実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師、等による相談窓口について、相談の利用形態、利用時間、申し込み方法等の説明を行い、掲示板などを利用して学生に周知を行った。

### 2. 経済的援助

学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて、学生課と連携し、情報提供及び手続を行った。

### 3. 事故・事件への対応

平成24年度は昨年度に引き続き、交通事故、不審者遭遇、盗難など事故や事件の件数が増加した。当該学生への事後の対応は、「学生教育研究災害障害保険」の適応等について学生課と連携し対応をした。また、メンタルヘルスについては、健康管理センターや保護者とも連携し支援を行った。

また、その他の学生には、掲示板等による注意喚起、交通安全講習会の実施等対応を行った。

### 4. 感染症への対応

配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査、B型肝炎抗体検査、ツベルクリン反応検査を実施、情報提供を行った。

## ○ 今後の課題

学生数が増え、各学生の履修状況等把握が難しくなっている。また、心身の健康相談、学費等経済面に関する相談、交通事故や犯罪被害等いずれも昨年度に比べ増加している。これまで以上に、交通事故の防止対策などを講じる必要がある。

# 実 習 委 員 会

小 坂 田 稔

## ○ 活 動 方 針

本年度は、社会福祉士養成課程では、定員増を図った最初の年度の学生の実習となった。少人数学生へのきめ細かな実習指導をどのように継続していけるか、大きな課題であった。精神保健福祉士養成課程においても新カリキュラム対応としての実習を考える一年となった。また、介護福祉士養成課程は、3年目を迎え、これまでの課題を踏まえて、より充実した配属実習を図っていく年度であった。本年度の活動方針は、こうした新たな状況とこれまでの成果と課題を踏まえた実習にどう取り組んでいくかであった。

## ○ 活 動 内 容

社会福祉実習の手引書として「実習のてびき 2012年度版」を作成し、事前学習、配属実習、事後学習に活用するとともに、実習委託先の本学部の各実習内容についての理解を進め、より充実した実習内容としていくための手引きとした。

本年度の相談援助実習は、学生数が増えた最初の学年としての実習であり、これまでのほぼ倍の56名の配属実習となった。内訳は、社会福祉協議会19名、病院(精神科除く)18名、児童相談所6名、児童養護施設9名、特別養護老人ホーム2名、軽費老人ホーム2名、障害福祉サービス事業所2名、就労継続支援B型施設1名、生活介護事業所1名であった。精神保健福祉援助実習の配属実習は26名が実習を行った。内訳は、精神科病院26名、精神保健福祉センター2名、障害福祉サービス事業所13名であった。介護実習Ⅰ、介護実習Ⅱ-①ともに20名、介護実習Ⅱ-②は17名が実習を行った。内訳は、介護実習Ⅰは、介護老人福祉施設13名、介護老人保健施設7名、障害者支援施設12名、重症心身障害児・者施設8名、通所介護事業所13名、通所リハビリテーション事業所7名、認知症対応型共同生活介護事業所10名、訪問介護事業所10名であった。介護実習Ⅱ-①は、介護老人福祉施設11名、介護老人保健施設6名、重症心身障害児・者施設3名であった。介護実習Ⅱ-②は、介護老人福祉施設13名、介護老人保健施設2名、重症心身障害児・者施設2名であった。

相談援助実習においては、昨年度より新カリキュラムに対応しており、毎週一回の巡回指導とともに、実習期間中の帰校日設定の形による実習指導に取り組んだ。

また、介護実習、相談援助実習、精神保健福祉援助実習の各実習先の実習指導者との連絡調整を図るため、3月6日に社会福祉実習連絡協議会を開催した。相談援助実習先からは26か所、精神保健福祉援助実習先からは4か所、介護実習先からは11か所の施設・機関より出席があり、学生の実習内容の発表と、実習先の実習指導者との懇談を行った。本年度は、他の行事などと重なった開催日となったため、やや参加施設が少ない結果となり、次年度の課題となった。しかし、参加施設の実習担当者の方々からは、様々な意見や提案をいただき、今後の各実習見直しの良き機会とできた。

また、相談援助実習・精神保健福祉援助実習・介護実習の3福祉実習を円滑に進めていくために、福祉実習支援室を担う各福祉実習担当助教と実習委員長との連絡会議を月一回行い、実習支援室の役割や機能の充実に努めた。



## ○成果と課題

### 増加した実習学生への対応

本年度は、社会福祉士養成課程においては、従来の倍の数の学生が実習に臨んだ。このため、実週先の確保とともに、県外での実習学生が増えたことによる実習巡回の体制づくりが課題となった。また、事前学習をこれまでと変わらず、きめ細かに如何に取り組めるかが最も大きな課題である。実習先からは、「事前学習がしっかりされており、積極的な実習となっている。」などの評価があり、事前学習の重要性が確認できるとともに、改めて事前学習のあり方の見直しが必要であり、指導体制や指導内容についての本気の検討が求められる。

### ふれあい実習のあり方

これまで行ってきたふれあい実習のあり方について、必ずしもその目的に沿ったものとなっていないため、配属実習に対する動機と問題意識を養うものとするために、この実習の内容等についての見直しが必要な時期に来ている。このことについての検討が今後の課題となっている。

### 福祉実習支援室の体制づくり

福祉実習を円滑に進めていくためには、福祉実習支援室の役割が重要であり、今年度も各福祉実習担当助教の皆さんの努力により、円滑に各実習は進められた。しかし、学生の増加に伴い、今後は、今以上に実習関連事務量は増加し、その負担は増加するものと考えられる。実習支援の根幹をなす実習支援室の機能が十分発揮できるために、助教の方々の負担を軽減していくための仕組みづくりの検討が、今後の課題となっている。

# 就 職 委 員 会

後 藤 由 美 子

## （１）全学的取り組み（地域教育研究センター）

平成 24 年度地域教育研究センターを創設し、5つの部会（共通教育部会、生涯学習部会、キャリア支援部会、産官学研究部会、地域課題研究部会）が設置された。キャリア支援部会では、学生のキャリア教育・就職支援の強化及び県民のキャリア開発の支援を行うものとして、①就職及び進路支援活動の企画実践、②キャリア教育の企画実践、③インターンシップ、④資格試験、就職試験、⑤資格に繋がるコースの設置、課外講座の5つの活動を推進している。詳細については、地域教育研究センターの年次報告書を参照のこと。

## （２）社会福祉学部の取り組み

### 1) 就職ガイダンス等

- ① オリエンテーション（2012年4月）
- ② 家庭裁判所調査官就職説明会（2012年4月）
- ③ 卒業生による社会福祉学部就職セミナー（2012年5月18日）  
講師：井上優子さん（5期生：精神科ソーシャルワーカー）  
岡田阿子さん（6期生：医療ソーシャルワーカー）  
氏原由理さん（9期生：高知県社協）  
和田浩香さん（10期生：医療ソーシャルワーカー）  
山添聡美さん（10期生：公務員）
- ④ 4回生による社会福祉学部就職セミナー（国試セミナー含）（2012年12月3日）  
講師：植月裕子さん、船口いのるさん、澤田温栄さん（いずれも12期生）
- ⑤ 4回生による社会福祉学部就職セミナー（国試セミナー含）（2013年3月21日）  
講師：甲斐恵梨香さん、高橋茜さん（いずれも12期生）

### 2) 個別相談等

ワクワクWork!!と連携しながら、社会福祉学部では学年担当教員、ゼミ担当教員らが中心となり、4回生の進路相談、履歴書添削、面接練習を行った。また3回生以下の学生に対しては、学部就職委員と学年担当教員が連携し、全学学生対象の就職ガイダンスへの周知および参加の呼びかけを行った。

### 3) 進路の状況

【就 職 率】就職希望者 30 名が全員就職決定（就職率 100%）

#### 【業種別内訳】

- ①医療業：14名（うち精神科病院：6名、公務員：3名）
- ②社会福祉：16名（障害者関係4名、児童関係3名、社会福祉協議会5名、高齢者関係4名）

【雇 用 形 態】正職員：26名、その他：4名

【卒後勤務地】高知県内：20名、高知県外：10名

### （3）今後の課題

平成 24 年度は定員 30 人の最後の学年であり、全員が社会福祉系の職場に就職することができた。しかし、今後は定員増の学年となり、就職委員及び学年担当教員だけでこれまでのような支援は困難であると思われる。次年度は社会福祉士及び精神保健福祉士に加え介護福祉士資格者が初めて卒業することから求人先となる事業所への広報活動が必要である。また、今後学生が希望する進路についても多岐にわたり、医療・福祉分野以外の就職希望者が増えることが予想されるため、学生への個別対応がより一層重要になる。学部では、個別の就職活動支援を学年担当教員のほかゼミ担当教員などにも拡大していく必要がある。全学的にはキャリア支援部会との連携や学生数に応じたワークWork!!のスタッフ人員配置などが検討課題として考えられる。

# 広 報 委 員 会

西 梅 幸 治

## ○本年度の取り組み

本年度の広報委員会（学部）は、全学広報専門委員会（大学案内・オープンキャンパス専門委員会）に西梅講師が参加、学部委員を西梅講師、田中助教、橋本助教、杉村氏が担当し計4名で構成した。その主要な取り組みは、次の通りである。

### （1）「大学案内」の編集・製作

平成23年度からの高知県立大学への校名変更と男女共学化に伴い、「大学案内」を改訂した。社会福祉学部の紹介ページでは、全面的に見直しを行い、年次で変更が必要な箇所、卒業生の声について修正を行った。その他では、卒業生からのメッセージ、キャンパスカレンダーなどについても修正を行った。

### （2）オープンキャンパス

社会福祉学部では、後の資料のとおり、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、学部紹介DVD上映、体験授業（田中教授、西内准教授）、ゼミ室訪問、介護体験コーナー、手話体験コーナー、見学ツアーなどのプログラムを実施した。学部企画への参加者数は、次の通りである。

#### 【平成24年度社会福祉学部での参加者数など】

全体＝131名、男：女＝19：112

県内：県外＝88：43（静岡1名、京都1名、兵庫4名、奈良1名、鳥取1名、岡山6名、広島6名、徳島2名、香川6名、愛媛12名、福岡1名、熊本1名、沖縄1名）

本年度プログラムは、全体的に好評であったが、新規に取り組んだ見学ツアー、年間行事ブックレット、国際活動のパネル展示もよい評価を得た。昨年度の問題点としては、全体説明会からの移動時の動線や体験授業への集中などがあったが、今年度は解消され、スムーズに進行することができた。

### （3）高校生のための公開講座

本講座は、高校生を対象に社会福祉の理解を深めてもらうと同時に、四国で唯一の公立大学で3福祉士資格に対応する本学部を認識してもらう機会とし、毎年開催している。本年度の開催結果は、次の通りである。

#### 【平成24年度の参加者数など】

参加者数：23校58名（参加申し込み：25校63名）

学年別：3年生51名、2年生6名、1年生1名

県内/県外比：県内15校49名/県外8校9名（県外：愛媛6校、徳島1校、大阪1校）

男女比：男7名/女51名

今年度の講座は、昨年度より参加者は減少したが、各資格に対応し適宜、演習を交えた内容で構成され、概ね好評であった。また課題としては、①台風などの影響による講座延期の判断と対応、②周知・配布のための広報ラインのシステム化などがあると感じている。魅力的な企画・実施が求められるため、今後もさらなる工夫に努めたい。

## 委員会活動年度報告書（広報委員会）

### （４）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。今年度については、1回生15名が出身高校を訪問して、男女共学化、全国推薦、大学生活などについてPRを行った。

### （５）学部パンフレットの作成

本年度は、昨年度作成した学部パンフレットを改訂した。年次で変更が必要な箇所について修正し、1,200部を作成した。

### （６）大学プロモーションDVDの制作

大学紹介DVDの作成を全学で実施し、社会福祉学部編、総合案内編、キャンパスライフ編、施設紹介編について制作を行った。学部編の内容としては、face to faceによる手厚い少人数教育をテーマに、専門職養成（3福祉士対応）、実習と研究の両面の重視、充実した国試対策、魅力ある学部での学生生活などで構成した。

### （７）学部ホームページへのイベント記事の掲載

本年度は、インターネットを利用した広報にも積極的に取り組んだ。全学・学部のイベントごとに写真付きの記事を作成し、学部HPに掲載した（20件）。またHPに活用するイメージ素材についても作成を行った。

### （８）キャンパス訪問への対応

学部訪問時には、教員による学部紹介、学部紹介DVDの上映、訪問高校の卒業生である学部生からの学部紹介、介護コースの学生を交えた介護体験などを、総務委員会と協力し行った。

6月14日 春野高等学校(33名) 7月5日 京都府立菟道高等学校(教員2名)

9月26日 香川県立善通寺第一高等学校(45名) 10月4日 宿毛高等学校(5名)

11月1日 追手前高等学校(18名) 3月29日 香川県立高松南高等学校(教員2名)

### （９）その他

その他、①全学のNextWeekへの記事の提供、②学部ステッカーの作成(実習巡回用)、③13進学forumの学部紹介記事の作成、④Benesseマナビジョンの学部紹介記事の作成、⑤「開け！介護の扉—第7回—」制作への協力(介護コース出演)、⑥高知県立大学FAQの修正、⑦卒業生動向調査の資料作成、⑧社会福祉学部広報誌「face to face」の作成、などを行った。

## ○今後の課題

学部定員増と男女共学化に対応した学部広報活動が今後も継続的に必要である。来年度は、公立大学法人、3福祉士対応、少人数教育、国試合格率・就職率の高さなどのメリットを活かし、高校生、保護者、進路指導担当を対象に広報活動を展開していきたい。特に学部パンフレットの作成、HPの活用の充実などを検討していきたい。また公開講座、オープンキャンパスについても、魅力的で効率的なプログラム構成に努めたい。

# オープンキャンパス 2012 に関するアンケート

## － 結果 －

高知県立大学社会福祉学部 広報委員会

- 開催日                    2012年8月5日（日）
- 資料請求数            131 ※基本セットを社福で渡した数
- 回収数                    88
- 学年別                    1年生 11名, 2年生 16名, 3年生 53名, 予備校生 1名, 不明 1名
- 男女比                    男 10名 / 女 76名        不明 2名
- 県内/県外比            県内 16校 54名 / 県外 28校 30名, 不明 4名

### 1. オープンキャンパスのことをどこでお知りになりましたか？

① 進路指導の先生	40
② ポスター	12
③ 大学の広報	12
④ 友人	9
⑤ テレビ	0
⑥ 新聞	0
⑦ 進学情報誌	11
⑧ インターネット	25
⑨ その他	4
無回答	1
<b>計</b>	<b>114</b>

※複数選択あり

2.社会福祉学部に関してどのような情報が知りたいですか？

① 入試関係の情報	40
② 教育内容・カリキュラム	47
③ 教員の研究内容・プロフィール	3
④ キャンパスライフ	16
⑤ 就職状況	18
⑥ 資格取得に関する情報	22
⑦ その他	1
無回答	1
計	148

※複数選択あり

3.社会福祉学部のオープンキャンパスで印象的だったプログラムは何ですか？

① 学部全体説明会	26
② 教員／先輩との談話室	20
③ 学部紹介ビデオ上映会	1
④ 体験授業	35
⑤ 介護体験コーナー	12
⑥ 見学ツアー	16
⑦ その他	2
無回答	2
計	114

※複数選択あり

4.社会福祉学部に関心を持ったきっかけは何ですか？

① 将来は社会福祉関係の仕事に就きたいから	70
② 資格を取得したいから	64
社会福祉士	47
精神保健福祉士	14
介護福祉士	8
③ 県立大学のため私学に比べ学費が安いから	34
④ 地元の大学で自宅から通えるから	13
⑤ 高校や塾の先生に勧められたから	7
⑥ 親に勧められたから	17
⑦ 共学化されたから	0
⑧ その他	3
<b>計</b>	<b>214</b>

※複数選択あり

5.本学の社会福祉学部へ進学を希望しますか？

① ぜひ進学したい	50
② できれば進学したい	17
③ 希望しない	3
④ 他の学部と迷っている・考え中	16
無回答	2
<b>計</b>	<b>88</b>



# Open Campus 2012

## 社会福祉学部



2012年8月5日(日)  
受付：  
共用棟1階ロビー

	共用棟(D棟)	社会福祉学部棟(E棟)			看護福祉棟(F棟)		
	2階 大講義室	E102 講義室2	E103 講義室1	演習室 各階	F110 小講義室	1階	F104 家政実習室
9時半	学部全体 説明会 [9:30-10:10]	資格や大学生活のことなど 何でも聞いてみよう!			教員との談話 コーナーあり!		
11時		例年大好評! 体験授業① [10:30-11:15]	教員/先輩 との談話室 [10:10-12:00]	ゼミ室訪問 [10:10-12:00]	学生による学部 紹介ビデオやス ライドの上映 (随時)	介護体験 コーナー [10:10-12:00]	休憩室 [9:30-12:00]
12時	食堂(共用棟地下1階)で学生アトラクション[12:00-13:00] (太鼓部とよさこいチームグローカルクラブJaparean)						
13時	学部 受付は 共用 棟1 階ロ ビー (9時 から 随時)	学部全体 説明会 [13:10-13:50]	教員/先輩 との談話室 [13:00-15:45]	ゼミ室訪問 [13:00-15:45]	学生による学部 紹介ビデオやス ライドの上映 (随時)	介護体験を通して 実際の介護に 触れてみよう!	休憩室 [13:00-15:45]
14時			ご家族の方も どうぞ!	ご家族の方も どうぞ!	例年大好評! 体験授業② [14:05-14:50]	介護体験 コーナー [14:00-15:45]	ご家族の方の 休憩に!
15時			フリードリンク コーナーあります 😊	実習や研究の様子など いろいろ聞いてみよう!		ご家族の方も どうぞ!	フリードリンク コーナーあります 😊
16時							

その他、学部紹介のパネル展示などを開催します!

<p>地域福祉について</p> <p><b>体験授業①</b> 社会福祉学部棟 1階 E102 10:30~11:15</p> <p>田中 きよむ 先生</p> <p>「住民主体の福祉型地域づくりの条件 —「住んでよかった」「住み続けたい」 まち・むらづくり—」</p>	<p>子どもと高齢者の支援について</p> <p><b>体験授業②</b> 看護福祉棟 1階 F110 14:05~14:50</p> <p>西内 章 先生</p> <p>「『安心した暮らし』を支える ソーシャルワーカーの仕事 —子どもや高齢者への生活支援—」</p>
---	--

体験授業を2つ開催!

社会福祉学部見学ツアーを開催!!

見学受付: 社会福祉学部棟 1階 E103「教員/先輩との談話室」コーナー

先生の研究室も  
見学できるよ!

ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部では、高知県内や県外の高校生を対象に「高校生のための公開講座」を本年度も開催いたします。この講座は、社会福祉に対する理解を深めていただくとともに、四国で唯一の公立大学で社会福祉を学ぶ、西日本で唯一の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の受験資格が取得可能な本学部の存在を認識していただく機会として実施しております。

夏休みのごとき、本学部で普段行われているような講義を聴いたり、先生方に直接質問することをおして、本学部の雰囲気になれる絶好の機会です。日ごろから社会福祉に関心を持たれている人だけでなく、たくさんの方に受講していただきたいと思っております。

多くの高校生のみならず、ご参加を心からお待ち申し上げます。

高知県立大学社会福祉学部  
学部長 前山 智

高校生のための公開講座の受講申込方法

1. 「高校生のための公開講座」受講申込書（別紙）に必要事項をご記入ください（黒のボールペンなどを用いて、楷書でハッキリとお書きください）。



2. 高校の先生を通じて、FAXか郵送でお申込みください。参加費は無料です。

**お申込み締切は、7月20日（金）必着**

【お申込み先】〒781-8515 高知市池 2751-1 FAX：088-847-8672

高知県立大学社会福祉学部・高校生公開講座係



3. 使用教室の関係で、参加定員は80名とさせていただきます。  
受講希望者多数の場合は、学校・学年などを参考に人数を調整させていただきます。  
（参加定員等の都合で参加いただけない場合、7月27日（金）までにお申込者様宛に連絡いたします。）

\* 講座は主に高校2、3年生対象で、男女問わず参加可能です。

# 高校生のための 公開講座 2012

2012年8月4日（土）  
10：00～16：00

社会福祉士  
合格率  
**75.8%**  
(全国平均26.9%)

精神保健福祉士  
合格率  
**90.5%**  
(全国平均62.6%)

介護福祉士  
養成課程  
2010年度  
スタート

就職率  
**100%**  
(2012年卒業生)

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国で唯一の公立大学です。  
さらに、西日本でただ一つ、3福祉士資格に対応した公立大学となりました。

未来のプロフェッショナルを育てる高知県立大学の雰囲気は、この夏、体験してみませんか？

高知県立大学は2011年度より男女共学となりました



第13回高校生のための公開講座  
2012年度のLINE-UP!

<b>8月4日(土) 10:00~16:00 (終了後アンケート)</b> 【池キャンバスへのアクセス】バス:土佐電グリーンロードサービス 高知県立大学・医療センター 高知駅前 はりまや橋 高知医療センター 高知県立大学 9:10 → 9:17 → 9:36 → 9:38 大人 390円	
10:00~	【開講式】高知県立大学社会福祉学部の紹介 (前山 智 学部長) 【講座①】社会福祉士に関わる授業 「医療機関におけるソーシャルワーカーの役割」 (鈴木 裕介 助教)
1時間 10:20~11:50	
昼休み 11:50~12:50	
2時間 12:50~14:20	【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「精神保健福祉士のしごと - さぐる、ささえる、つくる-」 (鈴木 孝典 准教授)
3時間 14:30~16:00	【講座③】介護福祉士に関わる授業 「聞き上手はコミュニケーション上手」 (三好 弥生 講師)
	【池キャンバスからのアクセス】バス:土佐電グリーンロードサービス 高知県立大学・医療センター 高知県立大学 高知医療センター はりまや橋 高知駅前 16:46 → 16:50 → 17:11 → 17:16 大人 390円

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。あらかじめお知らせください。

【会場】社会福祉学部棟(E棟) E102教室(予定)

- 8月4日(土)は学内の売店・食堂が休業しております。  
**各自で現金をご準備ください。**
- 3時間目終了時に簡単なアンケートにご協力ください。
- 翌8月5日(日)は高知県立大学オープンキャンパスが開催されます(事前申込不要)。こちらにもぜひお越しください。



お申込みお待ちしております!

高知県立大学社会福祉学部  
池キャンパス

〒781-8515 高知県高知市池 2751-1  
 TEL: 088-847-8700 (大学代表)  
 TEL: 088-847-8757 (学部代表)  
 FAX: 088-847-8672 (学部専用)  
<http://www.u-kochi.ac.jp/~fukushi/>

第13回 高校生のための公開講座 受講申込書

2012年 月 日

(フリガナ) 高等学校の 担当教員名		
(フリガナ)		
高等学校名		
高等学校の 所在地 等	〒	
TEL	FAX	
受講希望者全員の氏名(フリガナ)・学年・利用予定交通手段		
No	お名前 (漢字)	前名 (フリガナ)
1		
2		
3		
4		
5		
特記事項		

※本学部がこの申込書によって知り得た個人情報、[高校生のための公開講座]実施の目的以外には利用しません。  
受講希望者が6名以上の場合は申込書をコピーして記入ください

申込締切(必着) : **2012年7月20日(金)**

大学使用欄
-------

高知県立大学社会福祉学部  
FAX (学部専用) : 088-847-8672

**高知県立大学社会福祉学部**  
第13回

# 高校生のための公開講座

**2010年8月4日(土)**

(開講式)  
高知県立大学社会福祉学部の紹介  
(前山 智 学部長)

**10:00~**  
**1 時 限**  
10:20~ 「講座①」社会福祉士に関わる授業  
11:50 「医療機関におけるソーシャルワーカーの役割」  
11:50 (鈴木 裕介 助教)

**昼 休 み**

**11:50~**  
**2 時 限**  
12:50 「講座②」精神保健福祉士に関わる授業  
14:20 「精神保健福祉士のしくみ、ささえる、つくる」  
(鈴木 孝典 准教授)

**14:30~**  
**3 時 限**  
16:00 「講座③」介護福祉士に関わる授業  
「聞き上手はコミュニケーション上手」  
(三好 弥生 講師)

3時限目終了時に簡単なアンケートにご協力ください

# 健康長寿センター

福間 隆康

## ○活動内容

### 1. 健康長寿センター運営委員会

全学の運営委員会として、平成24年4月から平成25年3月までに、合計11回の会議を開催した。

### 2. 健康長寿センター運営委員会委員

- 1) センター長：池田光徳教授（看護学部）
- 2) 野島佐由美副学長（健康長寿に関わる事業担当）
- 3) 総務企画課健康長寿センター担当職員3名
- 4) 文化学部1名、看護学部教員2名、健康栄養学部2名、社会福祉学部4名  
合計14名

### 3. 平成24年度活動実績

詳細やパンフレット等は、後に掲載する。

## ○評価

1. 健康長寿体験型セミナーについては、土佐清水市社会福祉協議会、土佐清水市地域包括支援センターとの共催によって、118名の参加があり、より充実した運営（企画・広報・当日の運営等）を行うことができた。

2. リカレント教育講座については、受講者延べ人数199名で、今日的関心の高いテーマで4回開講し、スムーズな企画・運営を実施することができた。

## ○課題

リカレント教育講座に関する全学および学部ホームページへの積極的なリンクによる情報提供については、次年度以降の課題としたい。

## 平成24年度健康長寿センター事業

センター事業	実施年月日	事業名	参加者数
健康あり長寿社会を支える啓発事業 介護福祉の	平成24年5月26日、6月2日、9日、16日、23日、30日	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業 慢性疾患の人のための自己管理プログラム（CDSMP） ワークショップ	開催中止
	平成24年11月3日、11月24日	平成24年度親子でスリム教室・フォローアップ企画	58
	平成24年11月25日	平成24年度地域医療（多職種連携）フォーラム	106
	平成24年12月9日	看護学部企画の健康長寿センター体験型セミナー（幡多地区）	37
	平成25年2月3日	平成24年度健康長寿体験型セミナー（社会福祉学部企画） 「認知症についてみんなで学ぼう！支えあおう！つながろう！認知症についての話 和 輪」	118
	平成25年2月15日	健康長寿センター食の体験型セミナー（健康栄養学部企画） 「栄養バランスの良い食生活」	53
	平成25年3月20日	平成24年度第2回親子でスリム教室	40
高知県内の看護・福祉・栄養分野に係る人材養成事業	平成24年5月18日	健康長寿センターにおける看護相談室の広報活動	-
	平成24年6月12日	看護相談室2012老人看護ケア検討会	27
	平成24年6月16日	がん看護学ケア検討会「質が高いがん看護実践を検討する会」第1回	32
	平成24年6月22日	看護相談室 看護管理学領域ケア検討会（第1回）	29
	平成24年8月7日、8日、20日、21日	看護教員継続研修	94
	平成24年8月27日	健康長寿センター夏の公開講座	41
	平成24年8月30日	講演会「保健医療政策に貢献できる研究とは」講演会	92
	平成24年9月2日	地域看護領域リカレント教育「保健師活動を考える～東日本大震災 福島避難所への支援活動を通して～」	28
	平成24年9月8日、11月15日、平成25年2月2日	高知県看護協会・地域看護ブロック会	94
平成24年9月20日、21日、29日、30日、10月20日、12月15日、16日、平成25年2月16日、17日、3月25日、27日	高知県介護職員喀痰吸引等研修	121	

## 平成24年度健康長寿センター事業

センター事業	実施年月日	事業名	参加者数
高知県内に係る 看護人材・福祉・ 養成事業・栄養分野	平成24年10月6日	リカレント「病を持ちながら地域で生活する精神障がい者の「就労」について考える」	77
	平成24年10月13日	リカレント教育講座—精神障害のある人の居住支援を考える—	63
	平成24年11月3日	第2回公開講座「新人看護職者の人材育成について」	90
	平成24年11月10日	リカレント教育講座—年金・医療・介護システムの動向とゆくえ—	71
	平成24年12月1日	リカレント教育講座—介護とは何か：介護福祉入門—	31
	平成24年12月15日	リカレント教育講座—福祉・介護実践の効果をどのように測定する>のか—	34
高知医療センターと 協働による健康長寿 社会の発展	平成24年10月7日	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業「訪問看護の魅力を語りつくすフォーラム」	170
	平成24年10月25日	包括的連携事業「看護各領域の看護の質向上事業」	17
	平成24年12月14日	包括的連携事業「看護各領域の看護の質向上事業」	16
健康長寿（高知型福祉） を目指した地域連携事業	-	土佐市連携事業「とさっ子健診プロジェクト」	-
	-	土佐市連携事業「特定健康診査の受診率向上」	-
	-	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会事業「地域住民および患者を配布対象とした平成25年カレンダー作成事業」	-
	-	地域住民、患者を対象とした地域・社会貢献・治療食のパフレット作成	-
	平成24年10月18日、12月7日、10日	土佐市立土佐南・高岡中学校出前講座「味覚の不思議」	229
	平成24年11月18日	子育て支援事業：赤ちゃん同窓会	159
	平成25年3月23日	慢性疾患を有する患者を対象とした料理教室	19

事業実施のうち、網掛けで示したものは、社会福祉学部が主体的に関わったものである。

認知症について みんなで学ぼう! 支え合おう! つなごう!

認知症に  
ついての

話

和

輪

「認知症」ってどんな病気でしょうか? どこに相談すればよいのでしょうか?  
そして、家族や周りの人たちはどのように関わっていけばいいのでしょうか?  
住み慣れた地域で、最後までいきいきと暮らしていくために、今、何が必要なのでしょうか?  
大切なあなたと家族が、安心して暮らしていけることを願って「3つの和(話・和・輪)」を合言葉  
に認知症についてのセミナーを開催します。みなさま、ぜひお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

日時

2013年2月3日(日) 午後1時30分~3時30分

場所

土佐清水市社会福祉センター 3階大会議室  
(高知県土佐清水市寿町11-9)

対象

認知症に関心のある方、介護者の方など、どなたでも

内容

- 講演「認知症をふっとばせ  
一体を動かし、こころを動かす」  
講師 小笠原 望 先生(医療法人関の会大野内科院長)
- 高知県立大学社会福祉学部学生による  
寸劇 「笑う門には福来る」

当日は、看護、栄養、福祉の体験や相談コーナーを開設いたします。お気軽にお立ち寄りください。

問い合わせ

高知県立大学総務企画課  
電話番号 088-847-8575  
土佐清水市社会福祉協議会  
電話番号 0880-82-3500

事前申し込み  
は不要です!!

◇主催: 高知県立大学健康長寿センター

◇共催: 土佐清水市社会福祉協議会、土佐清水市地域包括支援センター



知のフィールドへの招待

10月13日(土)

11月10日(土)

12月1日(土)

12月15日(土)



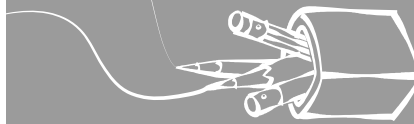
健康長寿センター事業

高知県立大学社会福祉学部

# リカレント教育講座

# 2012

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国内唯一の公立大学であり、西日本の公立大学ではただ一つ、3福祉士資格に対応しています。



## ○リカレント教育講座 パンフレット

### ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部  
学部長 前山 智

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

本学は平成23年度より高知県立大学に名称を変更し、男女共学化となり2年目に入りました。特に本学部は、平成22年度より定員を30名から70名に増員し、3つの福祉士国家資格(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士)に対応したカリキュラムでスタートしています。今後、これまでのface-to-faceのきめ細やかな教育を継続し、専門職養成の量の確保及び質の向上を目標に取り組みたいと考えております。

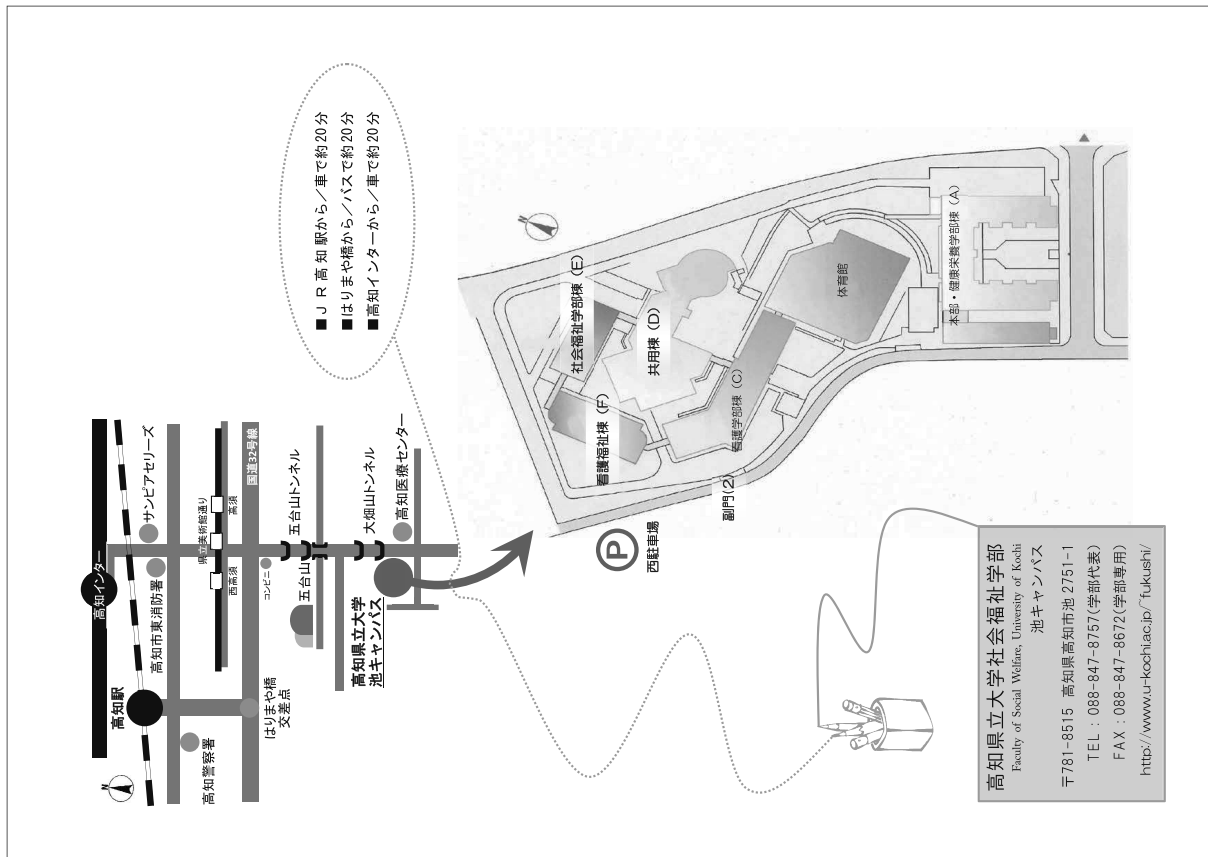
今年度のリカレント教育講座につきましては、社会福祉学部の新任教員や例年好評をいただいている教員が担当し、地域の保健・医療・福祉に携わる専門職の方々や地域にお住まいの皆様、社会福祉に関する4つのテーマで講演や演習形式の講座をご用意しています。

お気軽にご参加いただき、日頃の笑顔に多少なりともお役に立てれば幸いです。

## 講 義 者

### 講師プロフィール

<b>鈴木 孝典</b> (准教授)	神奈川県出身。医療法人丹沢病院 PSW、神奈川県立保健福祉大学助手を経て、2006年に高知女子大学に講師として赴任。赴任後、大正大学大学院人間学研究所福祉・臨床心理学専攻博士後期課程に在籍し、博士(人間学)を取得。 専門分野は、精神保健福祉論、障害者福祉論。現在の研究テーマは、精神障害者グループホームにおける包括的な支援評価のためのツールとシステムモデルの開発である。
<b>田中 きよむ</b> (教授)	滋賀県大津市生まれ。滋賀大学経済学部、滋賀大学大学院修士課程修了、京都大学大学院博士後期課程単位取得退学後、高知大学教員を経て、2006年度から高知女子大学(現 高知県立大学)教授。専門は、社会保険論、福祉行政論など。 著書は、『少子高齢化社会の社会保障論』(中央法規出版、2010年)など
<b>石川 由美</b> (助教)	高知女子大学大学院修士課程人間生活学研究所修了。(修士・社会福祉学) 高知県高知市生まれ。臨床看護師、訪問看護師を経て、2001年から在宅介護支援センターに勤務。介護支援専門員を業務しながら相談援助を行う中、福祉職への関心が高まり、社会福祉士資格を取得。2009年より、短期大学、専門学校にて看護師、介護福祉士の養成に携わり、本年度より現職。
<b>鳩間 亜紀子</b> (講師)	日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了。 自白大学人間社会学部人間福祉学助助手、財団法人社会福祉振興・試験センター社会福祉専門員を経て、2011年より現職。 専門は、高齢者福祉。



高知県立大学社会福祉学部  
リカレント教育講座  
一知のフィールドへの招待—

10月13日(土) 13:00~15:00 社会福祉学部棟 1階 E102	精神障害のある人の 居住支援を考える 准教授 鈴木 孝典 (定員: 50名)	グループホーム、ケアホーム、ホームヘルプサービスなど、精神障害のある人の居住支援をマネジメントする支援者(サービス管理責任者、相談支援専門員など)を対象に、居住支援にかかわるアセスメント、個別支援計画の作成、支援の実施、リスクマネジメントなどについて検討を進めます。 あわせて、個別支援計画の作成を支援するコンピュータツールについて紹介し、その活用方法や使用方法について解説します。 講座の対象: 精神障害のある人の居住支援にかかわるサービス管理責任者、相談支援専門員など (世話人、生活支援員、ホームヘルパーとして従事する方の参加も歓迎します)
11月10日(土) 14:00~16:00 共用棟 2階 大講義室	年金・医療・介護システムの 動向とゆくえ 教授 田中 きよむ (定員: 70名)	社会保障と税の一体改革では、年金、医療、介護を「高齢者三経費」と位置づけ、それらの制度改革が進められようとしています。また、昨年からは今年にかけて、介護保険法の改正、国民健康保険法の改正、診療報酬と介護報酬の同時改定もおこなわれました。それらの制度改革の動向は、国民生活および事業所・施設・医療機関にどのような影響を与えるのでしょうか。 そのような最新の動向も含め、近年の年金・医療・介護システムの制度改革の具体的な内容を解説しつつ、今後のゆくえと方向を探ります。
12月1日(土) 13:30~15:30 看護学部棟 1階 F110/F109	介護とは何か 一介福祉入門一 助教 石川 由美 (定員: 35名)	介護労働へのマイナスイメージが広まり、介護に従事する人材の確保が困難な状況が続く中、介護職に対する正しい知識と理解を深めていただくかと思えます。 「介護とは何か」ということを、介護理論を踏まえながら考えるとともに、根拠に基づいた安全で的確な介護の方法(移動・衣服着脱等)を実際に体験していただきたいと思っています。 介護に関心のある一般の方や、これから介護を学ぼうと考えている方などに、介護の魅力をごらん知っていただく機会になれば幸いです。
12月15日(土) 13:30~15:30 共用棟 2階 大講義室	福祉・介護実践の効果を どのように(測定する)のか 講師 嶋間 亜紀子 (定員: 70名)	介護保険制度が施行されて以来、福祉サービスの評価に関する研究や取り組みは活発になってきています。「科学的根拠にもとづく実践(Evidence Based Practices)」や「対人援助職の専門性」の検討と絡み合ったテーマでもあります。 本講座では、福祉・介護実践の効果をどのように(測定する)のか、また、その限界について考えてみたいと思います。 * 電卓をご持参ください

平成 24 年度リカレント教育講座申込書

2012 年 月 日

(フリガナ) 氏名		
連絡先		
<input type="checkbox"/> 勤務先	tel	fax
<input type="checkbox"/> 自宅	e-mail	
勤務先の名称		
職 種		
↓受講ご希望の講座に○をつけてください(複数講座の選択(併修)可能)		
演 題	精神障害のある人の居住支援を考える	鈴木 孝典 10月13日(土)
	年金・医療・介護システムの動向とゆくえ	田中 きよむ 11月10日(土)
	介護とは何か 一介護福祉入門-	石川 由美 12月1日(土)
	福祉・介護実践の効果をどのように(測定する)のか	岡間 亜紀子 12月15日(土)
本学部卒業生の場合記入	高知県立大学(高知女子大学) 社会福祉学部 第 期生	
特記事項		
これまでの受講経験	有 ・ 無(今回が初めて)	

- 申込者がいない場合、当該講座は開講いたしません。
- この申込書によって知り得た個人情報「リカレント教育講座」実施の目的以外には利用いたしません。

お申込締切日：各講座実施日の1週間前まで

申込書が足りない場合はコピーしていただくか、高知県立大学社会福祉学部のホームページよりダウンロードしてください。

リカレント教育講座受講申込方法

必要事項をご記入し、郵送か FAX でお申込ください

※ 黒のボールペンなどを用い、楷書ではっきりとお書きください

お申込先

[郵 送]

〒781-8515

高知市池 2751-1

高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座 係

[FAX]

088-847-8672

お申込締切日

各講座実施日の1週間前まで



当日、講座の開催会場へ直接お越しください



お申込お待ちしております！

# 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

上 白 木 悦 子

## ○看護・社会福祉連携部会について

### 1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

### 2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

## ○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 平成 24 年度も、昨年に引き続き、共同研修会（上記事業 3）にあたる）を毎月 1 回、定期開催した（詳細は、次ページ）。本年度の新たな取り組みとして、こころのサポートセンター（精神科病棟）との共同研修や看護局との共同研修を開催した。
2. ソーシャルワーカーと教員とによる共同研究（上記事業 4）にあたる）をすすめた。研究テーマは、ソーシャルワーカーに対する院内職員の認識（第一報）-急性期病院における転退院 とした。調査結果は、平成 25 年度医療マネジメント学会（於：岩手県盛岡市、平成 25 年 6 月 14 日～15 日）および院内学術学会において、報告予定である。

## ○社会福祉連携部会における取り組みの課題

平成 25 年度の取り組みとして、定例研修会の継続と内容の見直し、および、共同研究の継続を進めている。

以 上

教員によるコンサルテーションの実施

No.	実施日・期間	氏名or対象	参加人数	事業内容
1	4月20日(水) 17:00～19:00	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	15名	①本年度計画の確認・参加者自己紹介 ②学会発表に向けた検討・情報交換 ③看護・社会福祉連携部会事業計画の確認
2	5月16日(水) 17:40～19:10	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	14名	①学会発表に向けた検討・情報交換 ②退院支援計画書について
3	6月20日(水) 17:30～18:40	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	15名	①質問紙調査 状況報告 ②日本医療社会福祉協会全国大会 報告(担当:高知県立大学) ③看護・社会福祉連携部会事業計画の確認
4	7月18日(水) 17:30～19:10	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	14名	①こころのサポートセンターの概要、取り巻く法律、用語説明・社会資源について ②質問紙調査 調査データ打ち込みについて確認
5	8月15日(水) 17:30～	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	15名	①事例検討「繋がる～身元不明患者の家族支援～」(発表者:高知医療センター) ②質問紙調査 調査データ打ち込み・今後の確認 ③看護・社会福祉連携部会事業計画の確認
6	9月19日(水) 17:30～	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	13名	①質問紙調査 考察方法について確認
7	10月17日(水) 17:30～	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	13名	学会(質問紙調査)まとめ・抄録作成
8	11月21日(水) 17:30～	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	19名	①看護との共同事例検討会 「下肢切断後の長期入院患者への退院支援」 発表者:高知医療センター
9	12月19日(水) 17:35～19:05	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	16名	①質問紙調査 学会発表に向けた検討・情報交換・抄録作成について
10	1月16日(水) 17:40～18:15	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	11名	①質問紙調査 学会発表に向けた検討・情報交換・抄録作成・学会発表者について ②看護・社会福祉連携部会事業計画の確認
11	2月6日(水) 17:35～18:45	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	11名	①質問紙調査 学会発表に向けた検討・情報交換・抄録作成 ②日本医療社会事業協会「記録についての研修」報告(担当:高知医療センター) ③看護・社会福祉連携部会事業計画の確認
12	3月6日(水) 17:35～19:15	ソーシャルワーカー / 看護師/ 社会福祉学部	13名	①NICU入院児ソーシャルワーク研修 報告(発表者:高知医療センター) ②質問紙調査 学会発表に向けた検討・情報交換・パワーポイント作成 ③次年度の看護・社会福祉連携部会事業計画の確認 ④本年度の振り返り

# 総務・予算委員会

宮上多加子

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

## 1. 活動内容

① 教授会の資料準備及び運営：議題・資料の整理、議事メモの作成等

② 社会福祉学部棟施設・備品の整備（情報処理部会関係含む）

- ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、印刷状況のチェックと消耗品の補充等のメンテナンスを行った。各教員ごとのコピー使用枚数については、今年度より年度当初にコピー代充当分として一定額を確保し、使用枚数が上限基準を超えた分について試行的に調整を行った。
- ・ 4回生の国試準備・卒論作成用に空きゼミ室や福祉調査実習室を自主学习室として使用できるよう整備し、使用簿で管理する体制を作った。
- ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、ハードディスク管理及びウィルス対策のソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。

③ 広報委員会と協力して高校生見学に対応

- ・ 6/14 春野高校：33名
- ・ 7/5 菟道高校：教員2名
- ・ 9/26 善通寺第一高校：45名
- ・ 10/4 宿毛高校：5名
- ・ 11/1 追手前高校：18名
- ・ 3/29 高松南高校：教員2名

見学時には、学生が作成したDVD上映や、在学生による学部の紹介、介護コース教員の協力による介護体験を行った。

④ 学部日常事務の対応

学部事務職員の協力をえて、寄贈資料・手紙の整理、回覧などの仕事に対応した。

⑤ 平成23年度『社会福祉学部報』『学部パンフレット』発行

平成23（2011）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体200部を作成し、関係各所に配布するとともに、学部ホームページで公開した。また広報委員会との協力により、『高知県立大学社会福祉学部（学部パンフレット）』を一部改訂し1,200部を発行した。

## 委員会活動年度報告書（総務・予算委員会）

### ⑥ 卒業生動向調査並びに卒業生を対象した各種案内の送付

広報委員会と協力し、卒業生の動向調査を行うとともに、リカレント教育講座や大学院案内等を卒業生に随時送付した。卒業生を対象とした学部教育評価アンケートについては、学部教務委員会と協力し、平成22・23年度卒業生に対して試行的に実施した。

### ⑦ 学生教育用図書・資料等の充実

- ・ 図書館を通して定期購読している研究雑誌について、大学院の学生教育用予算を含めて見直しを行った。
- ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書を選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等を充実させた。
- ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化を行って検索・活用の利便性を向上させた。また、学生閲覧用論文資料の充実も引き続き行った。

### ⑧ 学部棟2階ホールの整備

学生数の増加に伴って、学部棟2階ホールに設置してある学生用掲示板を就職情報専用の掲示スペースとして拡充し、資料等の活用が可能なラックを設置した。また、閲覧や談話がしやすいように机とイスを更新した。

## 2. 今後の課題

教員数の増加に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化について引き続き検討していく必要がある。また、学生の定員増に伴う設備備品の整備や消耗品補充の対応等を含め、計画的な整備が課題である。同時に、自習スペースの確保や、4回生の国家試験準備のための自習室の確保等、物理的な制約が多い課題が浮上しているため、空室の有効な活用等を検討していく必要がある。





# IV

学生を中心とした活動



## 社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

### 国試対策WG委員会の取り組み

国試対策WG委員会では、4月に4回生を対象に、国家試験に関するガイダンスを実施し、受験に関する注意事項等について説明を行った。7月には、学内模擬試験を実施し、今年度の国家試験の特徴等に関する解説を行った。また、国家試験の受験申込に際しては、「受験の手引」に関する書き方講座を開催した。

国家試験が近づいてきた後期においては、学外模擬試験の結果に基づき、必要に応じて個別面談を実施し、助言を行った。国家試験直前の1月には、受験勉強を目的とした学生主体による合宿において、適宜サポートを行った。国家試験終了後の3月においては、新4回生を対象に合格者による体験談およびアドバイスを目的としたガイダンスを実施した。

年間を通じては、国家試験関連のテキストおよび問題集等をそろえ、福祉実習支援室で貸し出しを行うことにより、受験勉強の環境整備に努めた。

### 学生による合格体験談

#### 後輩のみなさんへ

私が本腰を入れて国試勉強に取り組んだのは卒論を提出した後からでした。それからはお正月など関係なく朝から学校へ行き、夜まで勉強しました。学校で勉強することによって、分からない部分は友人や先生にすぐに教えて貰うことができました。

後輩へのアドバイスとしては早くから問題を解くことに慣れておくこと、得意分野で点数を取れるようにすることです。国試、卒論、就活をバランスよく行うのは大変ですが成し遂げたことは、必ず将来へ繋がると思うので頑張ってください。

#### 国家試験を終えて

国試対策講座では先生方の分かりやすい講義や資料によって、曖昧であった内容を確実な知識にすることができました。さらに、重要なポイントに絞って講義をしてくださったため、重点的に勉強すべき内容を捉えることができました。

また、同じ学部の仲間同士で教え合うことにより、さらに理解が深まったと思います。そして何よりも大切なことは、諦めず最後まで勉強に取り組むことだと強く感じました。

付記：

2012年度国家試験合格率	本学（新卒）	全国
社会福祉士（第25回）	66.7%	18.8%
	第14位	218校中 <sup>※1</sup>
精神保健福祉士（第15回）	84.6%	56.9%
	第15位	117校中 <sup>※2</sup>

※1 10名以上受験した福祉系大学等218校中、新卒の順位

※2 10名以上受験した福祉系大学等117校中、新卒の順位

## 国際交流

### ヴェネチア大学（イタリア）からの留学生との交流

2012年6月4日、文化学部にて留学中のヴェネチア大学の学生10名が、池キャンパスへ来校しました。看護学部、健康栄養学部と合同で交流イベントを企画し、社会福祉学部では入浴介護実習の紹介を中心とするキャンパスツアーを実施しました。キャンパスツアー後の交流会では、看護研究科、生活科学研究科の中国からの留学生2名も合流し、全員でかるた遊びに盛り上がり留学生にも楽しんでもらえたようです。



#### （学生の感想）

- 短期留学から国際交流に興味があり、今回参加しました。またこのような機会がありましたら、参加し自分の世界観をもっと広げて行きたいと思います。
- 初めは少し緊張しましたが、話しかけると皆笑顔で応えてくれたので、すぐに緊張が和らぎました。交流を通し、それぞれの国の文化、日本との違いなどを知ることができました。
- 初めてイタリアの人と会いました。私の周りのあらゆる所でイタリア文化があることを知り、とても身近に感じました。イタリアの人が東洋や日本に関心を持ってくれたことをとても嬉しく思います。

### エルムズ大学（アメリカ）への短期留学

2013年2月24日から3月12日まで、アメリカのエルムズ大学への短期留学に社会福祉学部から2名の学生が参加しました。

#### （学生による体験記）

2週間の短い留学ではありましたが、学ぶことは多くありました。アメリカに着いた当初は、買い物をする、食べ物を食べるということだけでも苦戦してしまいました。自分自身の勉強不足のせいもあり、なかなか伝わらないことも多く、言葉を話すことに臆病になってしまう自分もいました。しかし、諦めず粘り強く私の話す一言一言に耳を傾けてくれるエルムズ大学の学生の姿勢に背中をおされ、カタコトの英語でも話し、伝えるということの積み重ねをすることでだんだんと話すことが楽しくなっていました。

改めて考えさせられることもたくさんありました。憧れていたボストンやニューヨークでは、町なかを歩いてみると、歌や楽器を演奏しそれだけを収入にして暮らしている方や、物乞いをしている方を多く見かけ、母国以外の福祉問題を間近で感じました。HIVの施設見学では、職員の方の「差別はまだ根強くある」という言葉に考えることも多くありました。

自分のなかで外国という憧れのフィルターを通して見るアメリカと、現実のアメリカは違っていました。外国の興味深さを感じると同時に、日本の素晴らしさを再確認しました。貴重な体験をありがとうございました。

## 学部イベント関連

### 第11回高知ふくし機器展に参加しました

6月1日から3日にかけて、第11回高知ふくし機器展が、ふくし交流プラザで開催されました。社会福祉学部では、6月2、3日の2日間、1、2回生を中心とした学生がボランティアとして参加しました。会場では、よりよいケアができるよう工夫された多種多様な福祉機器が展示されました。学生達は、様々な福祉機器に囲まれながら、来場されたたくさんの方々と交流を深めました。よりよい介護に向けて社会全体で考え、地域で支えあっていくことの大切さについて多くを学ぶ機会となりました。



### こうち介護の日 2012に参加しました



2012年11月11日、高知市中央公園で介護の日のイベントとして、「こうち介護の日 2012」が行われ、本学社会福祉学部が参加しました。一昨年から引き続き3年目の参加となり、今年も手浴ープチリラクゼーションーを実施しました。

当日は雨の降る中、たくさんの方が参加してくださいました。手浴で少しでもリラックスしていただければと思いましたが、「気持ち良かった」との言葉に学生たちも癒され、励まされている様子が印象的でした。

来場者が少し落ち着いた夕方、他の養成校の学生が手浴を体験してくださり、介護福祉への熱い思いを語り合い、未来の介護福祉士仲間との交流の場ともなりました。

介護福祉士養成校のPRでは、今年のおさこい祭りに参加した介護コース学生による、踊りの披露もありました。



## グローバルクラブ

私たちグローバルクラブは、「国際交流」「地域交流」「ボランティア」を3本柱として活動しているサークルです。みさとフェアなどの地域のイベントや、ボランティアに参加しています。

その中でも、グローバルクラブの活動の中心を担っているのが、よさこいチーム「グローバルクラブ J a p a r e a n（高知県立大学）」の運営です。このチームはグローバルクラブのメンバーがメインスタッフとなり、チームコンセプトの企画・立案から振りづくり、地方車の製作まで幅広い準備を行い、よさこい祭りの出場を目指します。今年度も、多くの方々からのご支援・ご協力に支えられながら、よさこい祭りまで準備を進めていきました。

2012年度のグローバルクラブ J a p a r e a nは「結夢舞台」というコンセプトで活動を行いました。J a p a r e a nが今までの伝統を尊重しながらも、さらに大きく一步前進することができたら、という夢を持ち、J a p a r e a nのメンバー全員でその夢を実現したいと考えました。“チームで結束して夢を叶える”という目標から「夢」に「結」を加え、「結夢」としました。また、「舞台」という言葉にはJ a p a r e a nに参加くださった方や関わってくださった方、全ての方にとって、このよさこい祭りが素晴らしい晴れ舞台となるように、という想いを込めています。

そしてこのコンセプトのもと、高知県立大学の在学生や卒業生、また他大学や専門学校の学生、地域の社会人の方々と共に、本祭りに出場し、無事2日間を踊りきることができました。明るい笑顔が溢れ、忘れられない素敵な夏の思い出となりました。

J a p a r e a nの活動を通して、自分たちでチームを結成し、一つのものを作り上げていくことがいかに大変なことかを感じ、メインスタッフを務める中で、迷い、悩むことの多い日々でした。時代は移り変わっていき、私たちの活動も以前と全く同じようにできないこともありました。代々受け継いできた伝統の重みを大切にしたいという思いと、今年度のコンセプト「結夢舞台」にふさわしいチーム作りを、という思いの間で、何度も悩みました。そのような状況でも私たちがくじけずに活動を続けることができたのは、仲間、OGの先輩方、後輩たち、顧問の先生など、多くの支えてくれる人がいたからだと思います。チームを結成する中で多くの方に出会えたことが何よりも大切な財産となりました。これからチームを主となって運営していく後輩たちも、支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、辛くて苦しいことから逃げずに向き合っていってほしいと思います。

最後に、いつもグローバルクラブの活動にご理解とご支援をいただき、大変感謝しております。これからも高知県立大学の1サークルとして、大学や地域に根ざした活動を進めていきたいと思っております。どうかご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。



## 太 鼓 部

太鼓部は現在4回生6名、1回生8名の計14名で活動しています。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。昨年度は、入学式・学祭・卒業式の学校行事に参加して太鼓を演奏しました。また、三里祭りをはじめとした地域のお祭りごとはもちろんのこと、福祉施設を訪問したりして太鼓の演奏を通して地域の人たちと交流しました。

一つの曲を仕上げるには、たくさん練習を積み重ねなければなりません。曲を仕上げる際に、毎日練習を行うので部員同士でぶつかりあうこともあります。しかし、そういったことを乗り越えることで、一つの曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、同時に部員同士の絆が深まっていくのが感じられます。また、訪問先の福祉施設や地域のお祭りでは、たくさんの方に喜んでいただき、次の練習の励みになっています。さらに、地域とのつながりも増えるので得るものがとても多いと思います。



太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができると思います。さらにそれらの経験は、大学を卒業した後も役に立つのではないかと思います。太鼓部の良さをより多くの人に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

## 池手話サークル

---

私たち、池手話サークルは今年度も週に一回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容としては、手話の本を活用して日常会話や単語などを学んだり、手話を活用した簡単なゲーム、手話コーラスの練習などをしたりと、みんなで楽しく取り組んできました。

手話コーラスは、10月に行われた学園祭、3月に行われた耳の日記念集会において発表しました。耳の日記念集会では、高知県聴覚障害者協会青年部の方々と一緒に練習を行い、ステージに立ちました。また、高知県聴覚障害者協会青年部の方々とは、年に一回交流会を行っており、今年の交流会においてはソフトバレーボール、昼食を取りながらの雑談を楽しみました。

また、3月に高知市内で行われた聴覚障害者老人ホーム設置決起集会にも関係者の方から声を掛けて頂き参加するなど、多くの場面で耳の不自由な方や手話に携わっている方と関わることができ、大変良い経験となりました。

手話を通して多くの人々と出逢い、多くのことを学ぶことができました。今後も手話を通して出逢った方々との繋がりを大切に、池手話サークルとしての活動を積極的に行っていこうと考えています。池手話サークルの活動を今後も暖かく見守って頂けたらと思います。





# いけとべ！

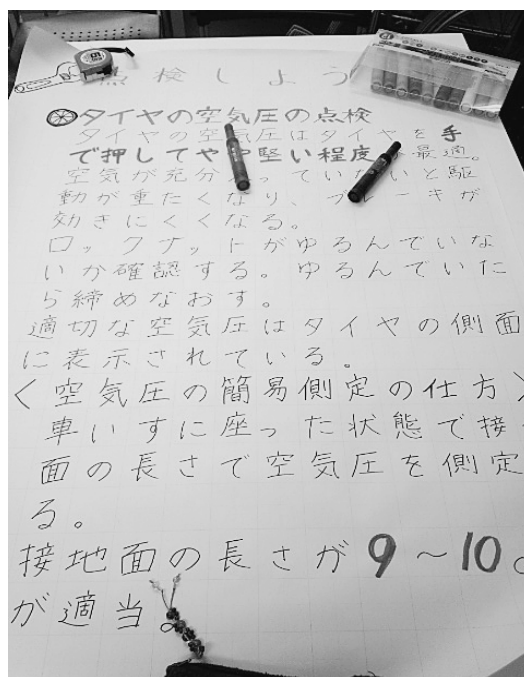
私たちは、日本で使われなくなった車いすを整備し旅行者に手荷物として託し、世界に送り届ける活動をしている札幌発の認定 NPO 法人「飛んでけ！車いす」の会の活動に感銘を受け、「いけとべ！」として活動しています。

「いけとべ！」は、「日本で使われなくなった車いすを高知女子大学池キャンパスから発展途上国へ飛ばそう！」という思いから、2006年に結成されたサークルです。

2012年度は、6月に高知ふくし機器展にてカレーブースを担当し、手作りのカレーを販売しました。10月には高知県立大学紅葉祭にて「ハロウィン」をイメージし、飴や外国のお菓子の詰め合わせと、ココナッツジュースを販売しました。またその際に、国際 NGO プランが行っている「Raise Your Hand ～世界の女の子のために手を上げよう！～」という活動に参加し、署名を集める運動をしました。Raise Your Hand とは、世界の女の子の教育とエンパワメントのために私たちの手を上げる姿を通して国際社会に働きかける参加型アクションです。

また年度末には、「いけとべ！」がメンテナンスをした車いすを、タイへ部員の手で飛ばすことができました。

現在部員数は4回生4名、3回生2名、2回生4名の計10名です。学生会館2階フリースペースにて車いすのメンテナンス等を中心に活動しています。今年度は昨年以上に学習会等を取り入れながら、充実した活動を行っていきたいと思います。



## イケてるあいあい

イケてるあいあい（通称イケあい）は、2011年に起こった東日本大震災を受け、来る南海地震に備えるということを目的としてつくられた災害ボランティアサークルです。

現在、部員は社会福祉学部、看護学部、健康栄養学部の学生の約20名で構成されています。学内に向けた啓発活動や、災害弱者への対策の調査、防災活動の企画を行っています。



その例として、先日のゴールデンウィークには二泊三日で、『未災地ツアー』を行うことを計画しています。将来南海大地震が起こると、高知県が被災地になることは避けられません。その未来の被災地で、防災について考えるツアーを企画中です。部員が、2012年に岩手県で行われた、いわて GINGA-NET の「夏銀河 2012」に参加した際に、人々が生活を営んでいた場所が津波によって更地になってしまった光景を見て、震災以前の岩手県を見ていたらもっと私たちには出来たことがあるかもしれない、感じることももっとたくさんあったのかもしれないという気持ちから、未災地ツアーは始動し始めました。ツアー当日は、関東関西地方から学生を招き、黒潮町の防災活動についての講演会や三里地区の方と一緒にフィールドワーク、学生の用意したワークショップを行います。参加した学生たちは、全国にネットワークを広げることができたと同時に、改めて高知県を知り、これからの高知県について考えていくきっかけにすることができるといえるでしょう。

またその他にも、2011年夏と、2012年冬の二回にわたって三里地区の防災キャンプにも参加させてもらいました。

これからの活動としては、防災キャンプや防災食作り体験、地区運動会の種目のなかに防災を取り込んだもの等を企画運営していく予定です。どこか遠い存在の防災を毎日の生活のなかで少しでも意識してもらえるような活動を心がけていきたいと思えます。

これからもイケてるあいあいはさらなる進化を遂げ、池キャンパスをてらしていくでしょう。



# ハモ☆イケ

『ハモ☆イケ』とは、高知医療センターの「ハーモニーこうち」でボランティアをしているイケてる池キャンパスの学生が和気あいあいと活動しているサークルです！

メンバーは、現在、社会福祉学部と健康栄養学部の学生で構成されており、主に授業の空き時間や放課後を使って、のびのびと活動しています☆

ボランティア内容は

- \*入院案内…患者さんを部屋まで案内します。
- \*図書サービス…図書館の本を入院患者さんに貸し出すお手伝いをしています。
- \*小児入院フロアでの見守り
- \*花壇の手入れや掃除など

「ハーモニーこうち」のボランティアさんと一緒に活動していますが、皆さんとても親切で、私たち大学生がボランティアに行くと、ボランティア後にお茶やおやつを出してくれたりなど、とても可愛がってくれます。

しかし、年々ボランティアさんの人数も減ってきており、入院患者さんの案内が週に1回しかできなくなっているなど、たくさんの問題も抱えています。『ハモ☆イケ』を立ち上げたきっかけも、「社会福祉学部のサークルとして、ハーモニーこうちを盛り上げていってくれないかな？」というボランティアさんの声でした。お隣さん同士、助け合いながら、患者さんやご家族の方たちを支えていこうじゃないか！そんな決意のもと、立ち上げたサークルです。このサークルが代々、社会福祉学部の後輩たちに引き継がれていけばいいなあと思っています。

2012年度は、サークルのメンバー一人ひとりが、出来る限りボランティアに行くようにシフトを作り活動するようにしていました。しかし、なかなか授業の空き時間と来てほしいボランティアの時間が合わず、特に図書サービスや入院患者さんの案内ができていませんでした。授業もあるので難しいかもしれませんが、今後少しでもそれらのボランティア活動を増やしていきたいと考えています。

毎年行っている医療センターでのバザーや、クリスマスツリーの飾り付けなど、イベントへのボランティアには参加できました。「ハーモニーこうち」の皆さんと一緒に、楽しみながら盛り上げることができたので、引き続き参加していきたいと思います。

『ハモ☆イケ』が発足して6年目になりますが、未だ試行錯誤を重ねながらの活動です。これからの継続したボランティアができるよう、皆で話し合い、協力しながら、よりよい方向へ向かって行けたらと思っています。



## かんきもん

こんにちは！かんきもんです。かんきもんは、4回生 24 人、3回生 13 人、2回生 10 人、1回生 22 人、計 69 人で「農家・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトのもと活動しています。

かんきもんは「援農」「YCPK」「傾聴」「その他の活動」の4つを柱として活動を行っているボランティアサークルです。

「援農」は、毎年恒例の 11 月頃に参加させていただいている柚子の収穫ボランティアです。収穫の際にお手伝いがほしいという方のいらっしゃる山間部に行っています。柚子収穫の作業は、首や肩がこったり、筋肉痛になったりと体力を使いますが、それ以上に、農家のおばあちゃんやおじいちゃん、地域の方々、自然とふれあう喜びや楽しさの方が大きく、学生生活の中でも忘れられない思い出になります。

「YCPK」では、小学校から帰宅する子どもの下校見守り活動や防犯教室のお手伝いを定期的に行なっています。高知大学・高知工科大学・高知学園短期大学とも連携し、防犯ボランティアYCPK（Young Crime Prevention in Kochi；若者防犯ボランティア in 高知）の活動も行っています。県警の方の協力のもと防犯に関するイベントへの参加や小学生の下校の見守り活動、防犯パトロール、ゴミ拾い、自転車整理等を行い地域の活性化や防犯意識の向上を目指し、活動しています。

「傾聴」では、一人暮らしの高齢者のお宅を訪問して、お話し相手をさせていただいています。

「その他の活動」としては、前記以外のボランティア活動や施設訪問などへの参加や紅葉祭での店舗の出店など、自分たちがサークルで行いたいことを積極的に行っています。

2012 年度は、1泊2日の北川村合宿に5人程度が参加し、その中で社会福祉協議会や地域の方のお話を聞き、多くの気づきと学びを得ました。また、街頭募金など地域に出向いた活動や、学祭のステージで警察の方と共同で防犯の呼びかけをするなど、幅広く活動を行いました。今後も農業だけでなく、様々な活動に取り組んでいければと思います。



# V

卒業論文題目一覧（2012年度）



平成24年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

教員氏名	題 目
小坂田 稔	地域福祉の視点からみた新しい共同住宅づくりの在り方に関する考察
	高知県中山間地域の地域福祉のあり方に関する一考察
	高知県における市町村社会福祉協議会の福祉教育の今後のあり方について ー県内における福祉教育の現状と課題を踏まえてー
杉原 俊二	児童養護施設における家庭支援の一考察 ー子どもと家庭への援助を中心としてー
	カッティングに対する支援の一考察 ーセルフヘルプを中心とした支援の可能性ー
田中 きよむ	家族による介護の継続性に関する一考察 ー家族介護の否定的・肯定的な精神面に着目してー
	認知症高齢者家族の介護負担と地域支援課題に関する一考察
	福祉型まちづくりにおける住民の主体性形成要因と意識・行動の変容 ー住民と社会福祉協議会職員の相互関係に着目してー
	日本における男女平等思想の再考 ーアンデス世界のジェンダー思想を手がかりにー
長澤 紀美子	発達障害が不登校に結びつく環境要因に関する一考察
	就学前における自閉症児の母親の障害受容過程 ー確定診断前と確定診断後の心理的過程に焦点を当ててー
	不登校問題に対する専門職間の情報共有のあり方について ースクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーの守秘義務に焦点を当ててー
宮上 多加子	母子生活支援施設での母親支援における性役割規範に関する認識 ー歴史的な背景を踏まえてー
	中途視覚障害者が医療からリハビリテーションへの移行期に受ける支援の現状 ーX県での当事者・専門職への聞き取り調査を通してー
	認知症の人と家族の会の集いに認知症の人本人が参加するための要因
後藤 由美子	受け持ち患者の死が医療ソーシャルワーカーの援助観に与える影響
	急性期医療における医療ソーシャルワーカーの退院援助に関する研究 ー意向調整の過程に焦点を当ててー
	高齢女性の地域活動への参加要因に関する研究 ー中土佐町矢井賀地区の活動に着目してー
鈴木 孝典	精神科病院におけるソーシャルワーカーの役割に関する研究 ー長期入院患者のターミナルケアに焦点を当ててー
	重症心身障害児者のQOLに関わる支援について
	障害のある子どもを持つ母親に対する就学支援の課題 ー地域の小学校への入学を希望する母親に焦点を当ててー
西内 章	精神保健福祉士が自己覚知に至るプロセスと援助関係の変化に関する研究 ー地域生活支援に携わる精神保健福祉士とクライアントの関係形成に着目してー
	緩和ケアにおける医療ソーシャルワーカーによる「社会的支援」に対する意識の研究
	回復期リハビリテーション病棟をもつ医療機関における地域連携に対する意識の研究
上白木 悦子	過疎地域における地域支援ネットワークの機能特性に関する研究 ー高知県2市町村の取り組みと認識をもとにー
	退院援助を行う際に医療ソーシャルワーカーに求められる視座に関する基礎的研究 ー患者の生活を捉える視座に着目してー
西梅 幸治	知的障害のある人の職場適応支援 ー一般就労における職場環境への働きかけに着目してー
	医療ソーシャルワーカーによる退院支援の方法に関する研究 ー療養の場の選択における患者・家族の意志決定支援に焦点化してー
	緩和ケアにおける医療ソーシャルワーカーの支援方法に関する研究 ー転院先における療養生活への移行過程に着目してー
	スクールソーシャルワークにおける学校教員との連携に関する研究 ー学校教員との関係づくりに着目してー

## 編集後記

---

社会福祉学部報第15号をお届けします。

平成24年度には、学部定員30名の最後の学年が4回生（第12期生）となり、1回生から3回生までが70名定員、うち男女共学の学年が1・2回生と揃い、男女が共に学ぶ活気あるキャンパスとなりました。伸び伸びとして明るい学生の気風や、先輩後輩間の関係をみると、「高知女子大学」生から「高知県立大学」生への橋渡しも順調に進んでいるように思います。一方で、従来からの特色であるきめ細やかな少人数制教育の良さを継承しつつ、定員増に伴う学生の多様化に即した教育体制の整備が課題と考えております。

また本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者の皆様方のご支援ご協力のもと、県内外に活躍する社会福祉専門職を養成するという重要な使命を果たし、多くの卒業生がいま様々な現場で活躍しております。今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思っております。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 宮上多加子・長澤紀美子

## 高知県立大学社会福祉学部報

第15号

発行日：2013年8月1日

発行者：前山 智（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部  
〒781-8515 高知県高知市池2751-1  
Tel 088-847-8700（大学代表）  
Tel 088-847-8757（学部代表）  
Fax 088-847-8672（学部専用）





